

学生の確保の見通し等を記載した書類

(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

① 学生の確保の見通し

ア 定員充足の見込み

人文学部（英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科）

英語英米文化学科の受験者数（一般方式入試及びセンター方式入試）は、過去5年間（平成23年度入試から平成27年度入試まで）の数値をあげると、入学定員100名に対して1,361名、1,196名、991名、982名、1,165名と推移している。受験倍率は4.8倍、5.2倍、4.7倍、3.5倍、4.3倍と推移している。新カリキュラム及び新コース（グローバル・スタディーズ・コース（以下、GSCという）英語プログラム）の導入によってより多くの受験生が集まると予想されるため、115名の入学定員に変更しても学生は十分に確保できると考える。

ヨーロッパ文化学科の受験者数は、過去5年間（平成23年度入試から平成27年度入試まで）の数値をあげると、定員100名に対して1,274名、1,373名、1,142名、1,246名、1,268名と推移している。受験倍率は4.7倍、6.4倍、4.4倍、3.6倍、3.8倍と推移している。平成29年度以降は、新カリキュラム及び新コースの導入（GSC英語プログラム、ドイツ語プログラム、フランス語プログラム）によってより多くの受験生が集まることが予想されるため、105名の入学定員に変更しても学生は十分に確保できると考える。なお、大陸ヨーロッパを主な研究対象とするヨーロッパ文化学科については、GSC英語プログラム希望者は英語英米文化学科ほど多くないと推測されるため、定員増は5名にとどめる。

日本・東アジア文化学科の受験者数は、過去5年間（平成23年度入試から平成27年度入試まで）の数値をあげると、定員100名に対して995名、939名、854名、864名、1,410名と推移している。受験倍率は4.4倍、5.2倍、4.2倍、3.1倍、4.2倍と推移している。平成29年度以降は、新カリキュラム及び新コースの導入（GSC英語プログラム、中国語プログラム、韓国・朝鮮語プログラム）によってより多くの受験生が集まると予想されるため、105名の入学定員に変更しても学生は十分に確保できると考える。ただし、東アジアの漢字文化圏を主な研究対象とする日本・東アジア文化学科については、GSC英語プログラム希望者は英語英米文化学科ほど多くないと推測されるため、定員増は5名にとどめる。（資料1、資料2）

就職率について述べれば、英語英米文化学科の過去5年間（平成22年度から平成26年度まで）の数値は、86.4%、95.6%、97.8%、97.1%、94.6%と推移しており、平均すると94.3%である。ヨーロッパ文化学科については、81.8%、87.5%、91.2%、91.6%、97.4%と推移しており、平均すると89.9%である。日本・東アジア文化学科については、90.1%、

84.8%、93.9%、90.5%、88.1%と推移しており、平均すると 89.5%である（資料 3）。また、人文学部の上場企業就職率は平成 22年度の 11.2%に比し平成 26年度は 27.3%であった（資料 4）。この統計からも人文学部 3 学科は社会からの人材の必要性も十分にあると考えられることから、増員を行っても十分に定員を充足できると判断した。

なお人文学部 3 学科の専任教員数は、英語英米文化学科が 15 名、ヨーロッパ文化学科が 14 名、日本・東アジア文化学科が 13 名である。平成 29 年度から入学定員を増やし、4 学年合計の収容定員が増えても、専任教員 1 名あたりの学生数は 3 学科とも約 32 名（1 学年約 8 名）であり、ゼミナール（演習）を中心とする本学の教育の質は維持できる。このことも学生確保の見通しを得させる判断材料となる。

社会学部（社会学科、メディア社会学科）

社会学科の受験者数（一般方式入試及びセンター方式入試）は、過去 5 年間（平成 23 年度入試から平成 27 年度入試まで）の平均が入学定員 125 名に対して 2,253 名、メディア社会学科の受験者数は、過去 5 年間の平均が入学定員 105 名に対して 2,153 名となっており、毎年一定数の受験者を集めている（資料 5）。

社会学科及びメディア社会学科の受験倍率は、過去 5 年間の平均がそれぞれ 5.7 倍、6.5 倍と、全国の 543 私立大学の社会・国際学部系統平均（河合塾による調査結果）の数値を大きく上回っており、安定的に受験者を集めているといえる。（資料 6）。

就職率について述べれば、社会学科の過去 5 年間（平成 22 年度から平成 26 年度まで）の数値は、88.9%、91.0%、95.7%、93.5%、93.7%と推移しており、平均すると 92.6%である。メディア社会学科は、88.1%、93.8%、91.3%、90.0%、93.5%と推移しており、平均すると 91.3%である（資料 7）。また、平成 26 年度における社会学部の上場企業就職率は 33.8%であり、3 人に 1 人は上場企業へ就職している（資料 8）。この点から、社会的需要も十分にあると判断できる。

以上を踏まえて、社会学部 2 学科に 1 ゼミナール分である各 12 名の定員増を行ったとしても、定員充足については問題ないと考える。また、専任教員 2 名を新規採用するため、定員増加による教育の質低下を招くことはないと判断する。

イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

今回の入学定員及び収容定員の増員を申請するに当たり、人文学部 3 学科及び社会学部 2 学科に関して、次のような高校生対象調査を実施した（資料 9、資料 10、資料 11）。

調査時期：平成 27 年 10 月 28 日～12 月 11 日

調査対象：高校 2 年生（以下の①～③に分かれる、①～③の対象者は重複していない）

調査地域：①関東地方を主とする 7 都県（高校留め置き調査）

②埼玉県（進路説明会での調査）[統計上は①に含める]

<p>③全国（接触者（資料請求者、オープンキャンパス来場者）対象の郵送調査）</p> <p>調査数：①16,215名（77校）</p> <p>②42名（1校）</p> <p>③1,622名</p> <p>計17,879名</p> <p>回答者数：①10,660名（回収率65.7%）</p> <p>②42名（回収率100%）</p> <p>③507名（回収率31.3%）</p> <p>計11,209名（回収率62.7%）</p> <p>調査項目：属性（対象別／性別／高校種別／高校所在地／所属クラス）、高校卒業後の希望進路、興味のある学問系統、各学部・各学科の特色に対する魅力度、人文学部への受験意向、各学科への入学意向</p>

人文学部（英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科）

以下に、高校生対象調査結果の概要を記す（資料12）。

まず、回答者を属性別に分けると、性別は「男性」が36.7%、「女性」が62.5%である。高校種別は「公立」が54.9%、「私立」が45.1%である。高校所在地は「東京都」が52.1%で最も多い。次いで「埼玉県」が25.6%、「千葉県」が10.4%、「神奈川県」が6.9%である。これらを合計すると95%になる。高校留め置き調査では文系クラス所属者を優先して調査実施を依頼したため、所属クラスは「文系クラス（文系コース）」が62.9%を占める。高校卒業後の希望進路については「私立大学に進学」が81.1%である。興味のある学問系統についての調査結果（複数回答）のうち最多であったのは、人文学部の伝統的な学修内容である「文学」（31.0%）である。あわせて、新コースにおいていっそう力を入れる予定の「外国語学」と「国際関係学」に興味をもつ生徒が一定数いることも注目される（前者が20.7%、後者が16.7%）。さらに「教育学・教員養成」18.5%、「芸術学」13.4%という数値も考え合わせれば、今回の調査対象者の興味と定員増を行う人文学部3学科の学修内容との親和性の高さは明白である。

ところで、調査地域を関東地方を主とする7都県とした理由は、本学の入学者の約90%は、東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県に、群馬、栃木及び山梨を加えた関東甲信地方であり、人文学部3学科についても同様の傾向を示しているためである。平成27年度入試において英語英米文化学科に入学した者のうち東京都と埼玉県の出身者の占める割合は70.8%、ヨーロッパ文化学科で同じ統計をとると61.9%、日本・東アジア文化学科で同じ統計をとると76.2%であった。人文学部3学科は、全国から学生を集める首都圏の大規模大学とは異なり、東京都と埼玉県を中心とした通学圏内の広範な層に志願者を見いだしていると言える（資料13）。こうした数値からも、本調査における回答者の属性は、人文学部3学科の定員充足の根拠となる客観的データの前提条件として適切であると考えられる。

次に、本調査の回答者が人文学部 3 学科の教育の特色に対してどの程度魅力を感じているか（魅力度）に関する調査結果を示す。調査対象者には、以下の 7 項目について回答してもらった。

〈人文学部 3 学科と学科横断グローバル・スタディーズ・コースの特色〉

英語英米文化学科	特色 A	英語圏の文化を学び、コミュニケーション力を身につけます。GSC 英語プログラム導入に合わせ、従来型コースにおいても英語学習を強化します。
ヨーロッパ文化学科	特色 B	ヨーロッパ世界の文化を学び、語学力を身につけます。GSC の枠組みで英語だけでなく、ドイツ語、フランス語の強化プログラムも新たに提供します。
日本・東アジア文化学科	特色 C	日本・東アジアの文化を学び、語学力を身につけます。GSC の枠組みで英語だけでなく、中国語、韓国・朝鮮語の強化プログラムも新たに提供します。
グローバル・スタディーズ・コース	特色 D	クォーター制度を導入し、集中的な英語教育で、英語による専門的講義やゼミを受講するための高い英語力が身につきます（英語プログラム）。
	特色 E	専門科目には 3 つのテーマ群があり、グローバルに活躍する力や英語を使った情報発信力が身につきます（英語プログラム）。
	特色 F	短期・長期の留学をはじめ多様なグローバル体験ができます。奨学金制度・褒賞金制度が参加を後押しします（全ての言語プログラム）。
	特色 G	武蔵大学の伝統・実績ある少人数教育で、外国人教員からのきめ細かなサポートが受けられます（全ての言語プログラム）。

これらの特色に対する魅力度（「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の割合）は、7 項目すべてにおいて全回答者（11,209 名）の 5 割を超える。最も魅力度が高いのは「英語英米文化学科」（特色 A）の 74.9%である。「ヨーロッパ文化学科」（特色 B）も 67.3%と高く、「日本・東アジア文化学科」（特色 C）も 56.7%であり、各学科の特色について半数以上の生徒が魅力を感じているといえる。「グローバル・スタディーズ・コース」については集中的な英語教育について説明した特色 D の魅力度が 73.4%と高く、次いで留学等のグローバル体験（全言語プログラム）について説明した特色 F の魅力度が 70.3%となっており、回答者が新コースの特色を高く評価していることがわかる。回答者の興味のある（つまり志望する）学問系統に注目すると、特色 A～G のすべてが「国際関係学志望者」「外国語学志望者」「文学志望者」にとって魅力的であることがわかる（資料 14）。

次に受験意向、入学意向に関する調査結果を示す。今回の調査は社会学部と共同で行い、

「人文学部」「社会学部」を受験してみたいと思うかをまず問い、全回答者のうち 21.4%にあたる 2,402 名から「受験したいと思う」という回答を得た。そのうちの 95.2%にあたる 2,287 名が実際に上記のどちらかの学部で「入学したいと思う」と回答している（資料 15）。

「人文学部」「社会学部」を受験して合格した際に、どの学部学科に入学したいと思うかを問う調査に関しては、「英語英米文化学科」が 725 名（受験意向者 2,402 名の 30.2%）、「ヨーロッパ文化学科」が 401 名（同 16.7%）、「日本・東アジア文化学科」が 243 名（10.1%）という結果となった。人文学部 3 学科のいずれの数値も、新たに予定している入学定員（英語英米文化学科 115 名、ヨーロッパ文化学科 105 名、日本・東アジア文化学科 105 名）を大きく上回っている。英語英米文化学科は新入学定員の 6.3 倍、ヨーロッパ文化学科は 3.8 倍、日本・東アジア文化学科は 2.3 倍である（資料 16）。

人文学部 3 学科の入学意向者の高校所在地と希望進路を検証すると、英語英米文化学科の入学意向者 725 名のうち 559 名（77.1%）が東京都または埼玉県の高校在籍者、651 名（89.8%）が私立大学進学希望者である。ヨーロッパ文化学科の入学意向者 401 名のうち 321 名（80.0%）が東京都または埼玉県の高校在籍者、352 名（87.8%）が私立大学進学希望者である。日本・東アジア文化学科の入学意向者 243 名のうち 194 名（79.8%）が東京都または埼玉県の高校在籍者、216 名（88.9%）が私立大学進学希望者である（資料 17）。

人文学部 3 学科の入学意向者が興味を持つ学問系統を調べると、英語英米文化学科は「国際関係学」「外国語学」が多数を占めて「文学」を大きく引き離しており、ヨーロッパ文化学科と日本・東アジア文化学科は「文学」が筆頭で「外国語学」「国際関係学」がそれに続いている（資料 18）。

以上に示した入学意向者の傾向は、人文学部 3 学科の従来の入試動向とも重なり合うものである。また、入学定員増と同時に導入する新カリキュラムによって語学教育を増強し、かつグローバル人材養成のための新コース（GSC 英語プログラム）において「国際関係」「グローバル文学」「グローバルな日本研究」を柱とする計画は、予定している新定員のもとでの学生確保の見通しを確実なものにしていると判断できる。

社会学部（社会学科、メディア社会学科）

高校生対象調査で、調査地域を関東地方を主とする 7 都県とした理由は、本学の入学者の約 90%は、東京都、埼玉県、千葉県及び神奈川県に、群馬、栃木及び山梨を加えた関東甲信地方であり、社会学部 2 学科についても同様の傾向を示しているためである（資料 19）。

本調査における回答者の高校所在地については、「東京都」が 52.1%で最も多い。次いで「埼玉県」が 25.6%、「千葉県」が 10.4%、「神奈川県」が 6.9%である。これらを合計すると 95%になる。また、高校卒業後の進路希望については、「私立大学に進学」が 81.1%である（資料 12）。

上記調査の地域的条件と回答者の進路希望からみて、本調査における回答者の属性は、社会学部 2 学科の定員充足の根拠となる客観的データの前提条件として適切であると考え

られる。

次に本調査の回答者が、社会学科、メディア社会学科、そして両学科から選択できるグローバル・データサイエンスコース（以下、GDS コースという）の教育の特色に対してどの程度魅力を感じているか（魅力度）に関する調査結果を示す。調査対象者には、以下の6項目について回答してもらった。

〈社会学部2学科とグローバル・データサイエンスコースの特色〉

社会学科	特色 H	社会学の基礎的な理論とデータの収集・分析法を学び、現代社会の諸問題を把握、分析する力が身につきます。
メディア社会学科	特色 I	情報の意味を読み解き、現代社会とメディアの関係を深く学び、メディアを活用する力が身につきます。
グローバル・データサイエンスコース	特色 J	英語による講義や海外研修などを通して、グローバル社会を分析するツールとしての英語力を身につけます。
	特色 K	入学後3年で卒業することも可能で、卒業後は国内外の大学院や国際インターンシップなど多様な進路選択ができます。
	特色 L	他学部や大学院の開講科目が受けやすくなるため、幅広い学修や学部時代から高度な研究にふれることが可能になります。
	特色 M	専門科目を通して社会データの科学的分析法やメディア分析法を学び、グローバル社会を分析する力が身につきます。

調査では、社会学部2学科でそれぞれ特色を一つずつ、GDS コースの特色として4つ、計6つの特色を挙げ、魅力を感じるかどうかを尋ねたが、この6項目すべてで魅力度（「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した者の合計値）は6割を超えており、特色のどれもがプラスに評価されていることを示している（資料20）。

特に、新しく始めるGDS コースは、国内でも滋賀大学や同志社大学などまだ一部で始められたものであり、高校生に広く認知されているとは言いがたい内容にもかかわらず、高く評価されている。たとえば、「英語による講義や海外研修などを通して、グローバル社会を分析するツールとしての英語力を身につけます。」（特色J）に魅力を感じるという回答者は67.2%もあり、6つの特色で最も高い値を示した。

次いで「他学部や大学院の開講科目が受けやすくなるため、幅広い学修や学部時代から高度な研究にふれることが可能になります。」（特色L）が65.4%の高率を示しており、この二つの結果だけでも新しく始めるGDS コースが注目され、魅力を感じられるものであることがわかる。このことから、定員を増員し、新たなコースを設置して新しい領域へ踏み出しても、一定の受験者が見込め、定員も十二分に充足すると判断する。

今回の調査は、人文学部と合同で実施したために、受験意向も人文学部、社会学部両方について聞いている。その結果は、「人文学部」「社会学部」を「受験したいと思う」と答

えた者は、全体の 21.4% (2,402 名) であり、毎年の志願者数を考えれば十分な人数と思われる (資料 15)。また、「受験したいと思う」と答えた者の入学意向を学科別で見ると、社会学科は、555 名 (受験意向者 2,402 名の 23.1%)、メディア社会学科は 363 名 (同 15.1%) で、こちらも例年のべ 2,000 名程度の受験者数であることを考えれば十分な数といえる (資料 21)。さらに、社会学部 2 学科の入学意向者の高校所在地と希望進路は、社会学科の入学意向者 555 名のうち 427 名 (76.9%) が東京都または埼玉県の高校在籍者、501 名 (90.3%) が私立大学進学希望者、メディア社会学科の入学意向者 363 名のうち 287 名 (79.1%) が東京都または埼玉県の高校在籍者、331 名 (91.2%) が私立大学進学希望者となっており (資料 22)、これは社会学部 2 学科の従来の入試動向とも重なり合うものである。

以上に示した入学意向者の回答数は、予定している増員後の定員である社会学科 137 名、メディア社会学科 117 名をいずれも大きく上回っており、学生確保の見通しを確実なものにしていると判断できる。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

人文学部 (英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科)

人文学部 3 学科を含め、本学では学生確保のために次のような取組を全学的に行っている。

第 1 は多様な入試である。本学独自の入試としては全学部統一 2 科目型、個別学部併願 3 科目型がある。センター方式としては前期日程 (1 月) と後期日程 (3 月) がある。個別学部併願方式とセンター方式前期日程・後期日程においては学部学科によって出題範囲・配点等が異なっており、それぞれの学科に個性がある。たとえばセンター後期では、英語英米文化学科とヨーロッパ文化学科が「外国語」の配点を高くする一方、日本・東アジア文化学科は「国語」の配点を高くしている。指定校制推薦入学をはじめ、AO 入試、編入学・転入学・帰国生徒対象入試・学士入学・社会人入試などの特別入試も実施している。AO 入試において人文学部 3 学科は「インターナショナル方式」(英語英米文化学科)、「外国語重視方式」(ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科) も行っており、外部試験 (各種の検定試験等) を出願資格に加え、いわゆる英語 4 技能を試す独自試験 (面接等) も外国人教員が中心になって行っている。新しい GSC の開設時には、その教育指導内容に適合的な学生を確保するための新方式の入試を導入する予定である。その際には英語 4 技能を試すことのできる各種の外部試験を用いることになる。秋入学 (後学期からの入学生受入れ) については、まず学士 (及び修士) の学位の取得を目指す外国人留学生を対象にした制度設計を行う予定である。なお日本・東アジア文化学科だけで行ってきた外国人特別入試は、その範囲と規模を拡大することになる。

第 2 に挙げるべき学生確保の取組は、本学を高校生等に周知する機会を多く設けていることである。オープンキャンパスは年 4 回 (平成 26 年度の総来場者数は 6,439 名) 行っており、平成 20 年度以降は来場者数 7,000 人前後、志願者数は 1 万 5,000 人前後である (資

料 23)。入試直前の 11 月には一般入試説明会も行っている（平成 26 年度の来場者は 900 名）。このほか高校に教員が出張する模擬授業（平成 26 年度 75 回）、高校で行う進路説明会（平成 26 年度 152 回）も実施している。高校からの大学訪問も数多く受け入れている（平成 26 年度 41 回）。なお高校教員対象の大学説明会を 6 月に行っており、人文学部 3 学科からも教員が教育課程等について説明を行い、質疑応答を行っている。

第 3 の取組としては、Web サイトと大学案内（Musashi Magazine）による広報がある。本学の Web サイトは平成 25 年にリニューアルを行い、特に「ゼミブログ」によって本学の教育内容を具体的にレポートする努力を続けている。人文学部 3 学科においても月に 1 度程度、新しいゼミナール活動の紹介を掲載している。大学案内はあらゆる側面から本学の教育内容、就職状況、学生生活、入試制度・入試動向等を詳しく説明したものであり、平成 26 年度までの 3 年間をみると、約 2 万部を資料請求者に郵送している。

今後、受験生及び関係者に対して行う情報提供や広報活動においては、人文学部 3 学科のグローバル人材養成の取組の強化に合わせ、Web や冊子で外国語（特に英語）による発信量を増やす予定である（内容的には、学部の概要と特徴、各種のポリシー、教育内容、入試情報等）。

社会学部（社会学科、メディア社会学科）

社会学部は、安定的に学生を確保するために、次のような取組を行っている。

第 1 に、人文学部同様、多様な入試を行っていることである。一般方式（全学部統一 2 科目型、個別学部併願 3 科目型）やセンター方式（前期日程、後期日程）、指定校制推薦入学をはじめ、AO 入試、帰国生徒対象入試、社会人入試、編入学・転入学試験、学士入学試験を実施している。これらは多くの大学でも見受けられるものだが、社会学科の AO 入試はテーマレポート方式を取っており、一次選考では設定されたテーマについてのレポートを活動歴と共に提出し、二次選考では小論文と面接を行うという多面的な評価を主眼としたものである。さらにメディア社会学科が平成 28 年度入試から始めたのは、従来の作品方式に加え「クリエイティブチャレンジ方式」という他に例のない入試を導入した。これは、試験直前に Web で出題される課題を 2 日後の二次選考の際に持参し、自身のアイデアについてプレゼンテーションを行い、その場で面接委員から指摘されたことを元に、一定時間内に試験場内で修正を行い、2 度目のプレゼンテーションを実施するものであり、コミュニケーション能力、判断力、創造力など筆記試験では見ることのできない能力を評価している。入学試験で、一定の学力水準が必要なのは当然としても、筆記試験で判断できる学力とは別の、社会で必要となる力を評価対象とするもので、入試における多面的評価を求められている現在、その意味は小さくないと考えている。このように、多くの形式の試験を導入するのは、安定的に学生を確保するという意味合いの他に、学生自体の多様性を確保したい、という強い希望がある。少なくともセンター試験や一般選抜入試で入学した学生とクリエイティブチャレンジ方式で入学した学生は、その指向性、考え方、視点など多

くの点で同質ではないと判断している。今回新たに GDS コースを設定し、このコースを目指す高校生も、これまでとは少し異なった性質を持っていると期待している。多様性の中で培われる知こそが、グローバル社会で通用するものだと考えている。以上の多様な入試による多様な学生確保については、引き続き精力的に検討を重ね、制度の見直しや新規導入を図る予定である。

第 2 の学生確保に向けての具体的な取組は、人文学部同様、オープンキャンパス（資料 23）や Web サイトでの教育内容等の情報提供（平成 27 年 11 月 18 日～平成 28 年 1 月 25 日の約 2 カ月間のページビュー約 97,000）、高校での模擬授業や一般入試説明会、進路説明会、大学訪問の受け入れなどである。これらを通じて本学の教育内容を周知し、学生確保につなげている。

(2) 人材需要の動向等社会の要請

① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

人文学部（英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科）

人文学部は、広く深い教養、言語能力及び国際感覚を培い、人文学の各分野における専門的知識と応用力を修得させることを教育研究上の目的とし、現代的な課題の解決に主体的に取り組む人物を育成することを人材養成の目的とする。

入学時に始まるゼミナール（演習）の学びと最終段階における卒業論文（英文エッセイ、ドイツ語やフランス語の論文を含む）の執筆を目的とする対話型の指導によって、論理的な思考力、洞察力、表現力、構想力を培い、世界の諸文化の間に存在する差異を認識して他者を尊重する精神を養い、かつ自立を重んじて主体的に行動する姿勢を身につけさせている。また、地球市民としての想像力を豊かにもち、高い言語能力と国際感覚をもって各種の課題解決に取り組む人材の養成を目指している。

英語英米文化学科においては、グローバル化の進展のなかで国際共通語としてますます役割を強めている英語に熟達し、かつ英語圏の文化現象について専門的に学び、その知識と力を現実社会の営みや職業生活に生かすことのできる人材を養成している。本学科の教育目標は、高度な英語の運用能力、学校等の公共機関や民間団体において英語教育に自ら携わる力、英語圏の文化と社会についての豊かな知識、加えて自国の文化と英語圏の文化を比較する目を養うことであり、また異文化間の平和的な共存に貢献しうる有為の人材を育成することである。

ヨーロッパ文化学科においては、EU の拡大と統合の進展という大きな変化の中にある欧州の姿を巨視的にとらえ、同時に、豊かな文化をもつ個別の地域に注目する教育を行っている。本学科がとくに重視しているのは、ドイツ語やフランス語の習得に力を入れる中で文化と言語の多元性を深く認識し、複眼的な文化理解をもって国際的交流に貢献しうる人材、外国語や歴史や地理を教える力のある人材、日常生活と勤労の場で文化的知識を応用

し、社会のあり方や人間集団の営為に豊かさを与える知恵のある人材の養成である。

日本・東アジア文化学科においては、第 1 に日本の文化を深く学び、その保存、継承、新たな発展に寄与しうる人材を育てている。そして東アジア世界における自文化と異文化を複眼的にとらえ、それぞれの個性を理解、尊重し、身近な場所で交流を試みるための教育を行っている。そのため中国語と韓国・朝鮮語の学習が奨励されている。本学科が具体的に企図しているのは、日本語を教える人、日本と東アジアの歴史や地理を教える人、文化財を守る人、日本に関する情報を国際的に発信する人、日本と東アジアの文化交流を職業や地域社会の営為に生かせる人材の養成である。

以上は現時点で掲げている人材養成目的等であるが、入学定員増及び新カリキュラムの導入と同時に、武蔵学園の建学の三理想に根ざす「世界雄飛」の精神をいっそう強調し、海外においても国内においても異文化理解と語学力を活用して働くことのできるグローバル人材・グローバルリーダーの養成を明確に謳う予定である（たとえば「Think and act as global citizens」といった新しい標語を学部として定める計画である）。

社会学部（社会学科、メディア社会学科）

社会学部は、来るべき社会像を描くため、現在を見据え、過去・現在から学び、未来を創る、有用な教育を行なうことを最重要ミッションと位置づけている。社会学部が目指すのは、今日変動期にある日本及び海外諸国並びに諸地域における具体的で多様な社会問題を見出し、それらを理論的かつ科学的に分析し、望ましい社会のあり方を考える総合的な構想力を持った有為な人材を育てることである。加えて、人類が生活の質を高めるために、近未来の社会において如何なる関係性を築くべきかを考究し、他者の自己決定権、自己の尊厳、文化の多様性を相互に尊重しうる理性、寛容、博愛に基づく批判的精神と共感的対話力を涵養することを目指す。本学部は、この教育の基本方針の下で、社会学の専門的知識と実践的技能を活かし、これからの百年に思いを馳せ、いまからの十年を拓き、自己と地域に根付きつつ、グローバルに活躍する、真正なる地球市民の育成を図っている。

こうした目標の下で、社会学科においては、グローバルな視点で現代社会の問題状況を見据えつつ自己の生活を豊かにすることのできる新しい市民社会を理論的に考察し、経験的に調査し、実践的に提言しうる課題解決能力を備えた人材の養成を行う。また、行政機関・公共団体、企業や広告代理店、国際機関・NPO・NGO等で豊かな社会学的想像力をもって活躍しうる未来志向型の人材育成も図る。

メディア社会学科においては、あらゆる場面でメディアを批判的かつ正確に読み解く力とメディアを活用してオリジナリティーのある情報を発信する力のある人材の養成を行う。社会学的な発想や理論的思考を基礎としつつ、豊かなメディアリテラシーとコミュニケーション能力、グローバルな情報発信力を備え、地域社会の活性化や課題解決に市民として取り組むことのできる人材、加えてジャーナリズムや媒体制作等、各種の企業・団体の第一線で活躍することのできる先端的知識と技能を有した人材を育成することを目的として

いる。

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

今回の入学定員及び収容定員の増加を申請するに当たり、人文学部 3 学科及び社会学部 2 学科に関して、次のような企業対象調査を実施した（資料 24、資料 10、資料 11）。

調査時期：平成 27 年 10 月 20 日～12 月 11 日

調査対象：企業の人事関連業務担当者（以下の①②に分かれる）

調査方法：①郵送調査

②大学内で実施の説明会や企業訪問にて配布・回収

調査地域：関東地方を主とする全国

調査数：①754 社

②67 社

計 821 社

回収数：405 社（回収率 49.2%）

調査項目：人事採用への関与度、本社所在地、業種、従業員数、新規大卒者の平均採用人数、本年度の採用予定数、採用したい学問系統、各学部・各学科の特色に対する魅力度、各学科の社会的必要性、各学科卒業生の採用意向、各学科卒業生の毎年の採用想定人数

人文学部（英語英米文化学科、ヨーロッパ文化学科、日本・東アジア文化学科）

以下、企業対象調査の主な結果を示す。

第 1 は回答者（回答企業）の属性である（資料 25）。回答者のうち 94.0%が採用のための選考に関与しており、このことが本調査の有効性を担保している。回答企業の 74.8%が東京または埼玉を本社所在地としているが、このことは東京都と埼玉県の出身者の多い人文学部 3 学科の学生にとって意義ある結果である。業種では「製造業」（16.3%）、「その他サービス」（14.3%）、「商社」（12.8%）、「金融・保険業」（12.3%）が多いが、これらの業種には海外進出しているか、新たに海外進出しようとしている企業が多く、グローバル人材を養成しようとする人文学部 3 学科に対して比較的大きい人材需要を有していると判断される。企業規模に着目すると「従業員 1,000 名～5,000 名未満」及び「5,000 名以上」の大きな規模の企業が全体の 44.2%を占めているが、このような企業においては国際業務への人材需要がますます高まっていると推測されるため、本調査の目的に適合している企業が回答を寄せていると判断される（中小企業庁の統計によれば、企業の対売上高輸出割合は中小で 10%未満である一方、大規模企業は約 30%であり、海外業務の必要度は当然のことながら大規模企業ほど大きい）。採用方針は「増やす」と「昨年度並み」を合わせると 82.2%

であり、採用に積極的な傾向がわかる。採用したい学問系統（複数回答）については、「文学・人文学」「外国語学」「国際関係学」を合わせると 57.1%となり、グローバル人材を養成する新コースを設けようとしている人文学部 3 学科の調査対象として適切な企業が回答していると判断できる。

第 2 に、本調査の回答者（回答企業）が人文学部 3 学科の教育の特色に対してどの程度魅力を感じているか（魅力度）に関する調査結果を示す。調査対象企業には、高校生対象調査と同じく、以下の 7 項目について回答してもらった。

〈人文学部 3 学科と学科横断グローバル・スタディーズ・コースの特色〉

英語英米文化学科	特色 A	英語圏の文化を学び、コミュニケーション力を身につけます。GSC 英語プログラム導入に合わせ、従来型コースにおいても英語学習を強化します。
ヨーロッパ文化学科	特色 B	ヨーロッパ世界の文化を学び、語学力を身につけます。GSC の枠組みで英語だけでなく、ドイツ語、フランス語の強化プログラムも新たに提供します。
日本・東アジア文化学科	特色 C	日本・東アジアの文化を学び、語学力を身につけます。GSC の枠組みで英語だけでなく、中国語、韓国・朝鮮語の強化プログラムも新たに提供します。
グローバル・スタディーズ・コース	特色 D	クォーター制度を導入し、集中的な英語教育で、英語による専門的講義やゼミを受講するための高い英語力が身につきます（英語プログラム）。
	特色 E	専門科目には 3 つのテーマ群があり、グローバルに活躍する力や英語を使った情報発信力が身につきます（英語プログラム）。
	特色 F	短期・長期の留学をはじめ多様なグローバル体験ができます。奨学金制度・褒賞金制度が参加を後押しします（全ての言語プログラム）。
	特色 G	武蔵大学の伝統・実績ある少人数教育で、外国人教員からのきめ細かなサポートが受けられます（全ての言語プログラム）。

これらの特色に対する魅力度（「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の割合）は、7 項目すべてにおいて全回答企業（405 社）の 70%台から 80%の高率である。とくに「英語英米文化学科」の特色 A の魅力度は 88.9%であり、7 項目の中で最も高い。「グローバル・スタディーズ・コース」の特色 D～G の魅力度も、それぞれ 86.7%、85.2%、84.9%、86.4%と高率であり、本調査対象企業の求める人材像が浮き彫りになっている（資料 26）。

第 3 に、人文学部 3 学科の社会的必要性に関する評価、各学科卒業生の採用意向、毎年

の採用想定人数についての調査結果を示す。社会的必要性については、英語英米文化学科は回答企業（405社）のうち383社（94.6%）から、ヨーロッパ文化学科は358社（88.4%）から、日本・東アジア文化学科は387社（95.6%）から「必要である」との回答を得ており、いずれも高率である（資料27）。人文学部3学科の卒業生に対する採用意向については、英語英米文化学科は回答企業（405社）のうち357社（88.1%）から、ヨーロッパ文化学科は325社（80.2%）から、日本・東アジア文化学科は359社（88.6%）から「採用したいと思う」という回答を得ている（資料28）。

最後に、人文学部3学科の卒業生に対して採用意向を示した企業に、毎年度の採用想定人数を尋ねたところ、その合計は、英語英米文化学科は毎年度537名、ヨーロッパ文化学科は毎年度435名、日本・東アジア文化学科は毎年度514名であった（資料29）。付言すれば、どの学科についても、10名以上採用したい、5～9名採用したいという企業が、採用意向を示した企業の2～3%存在する。以上の調査結果から、英語英米文化学科の入学定員を100から115に、ヨーロッパ文化学科及び日本・東アジア文化学科の入学定員を100から105に増やしても、人文学部3学科に対する人材需要は供給を確実に上回ると判断できる。

社会学部（社会学科、メディア社会学科）

第1は、回答者（回答企業）の属性である（資料25）。回答企業に関しては、94.5%が採用や選考に関わる業務に関与しており、本調査の回答者としてふさわしいと考えられる。回答企業の本社所在地に関しては、回答企業の74.8%が東京または埼玉を本社所在地としているが、このことは東京都と埼玉県の出身者の多い社会学部2学科の学生にとって意義ある結果である。回答企業の業種としては「製造業」が16.3%と最も多く、次いで「その他サービス」が14.3%、「商社」が12.8%、「金融・保険業」が12.3%となっており、これらで全体の5割を超えている。回答企業の規模は、従業員規模が1,000人以上の規模の企業が44.2%を占めており、5,000人以上の規模をもつ企業も全体の11.1%を占めている。回答企業の業種は、社会学部生の就職先業種とも近似しており、回答企業の規模についても、社会学部生の就職先において上場企業が3分の1を占めていることを考えると、調査対象として適切な企業が回答していると判断できる。なお、回答企業の過去3か年の新規大卒者の平均採用人数を尋ねたところ、「100名以上」が18.3%、次いで「10～20名未満」が17.0%を占めた。回答企業の本年度の採用予定数は、「昨年度並み」が56.5%で最も高く、「増やす」が25.7%となっており、昨年並み以上の採用を予定している企業が8割を超えている。採用したい学問系統は、「学部や系統を問わない」が64.9%で最も高く、「社会学」は22.0%であった。

第2に、上記の回答企業が、新たなGDSコースの教育の特徴をどのように判断しているかの結果を紹介する。回答企業には、高校生に対する調査と同様に、以下の6点の特徴について回答してもらった。

〈社会学部2学科とグローバル・データサイエンスコースの特色〉

社会学科	特色 H	社会学の基礎的な理論とデータの収集・分析法を学び、現代社会の諸問題を把握、分析する力が身につきます。
メディア社会学科	特色 I	情報の意味を読み解き、現代社会とメディアの関係を深く学び、メディアを活用する力が身につきます。
グローバル・データサイエンスコース	特色 J	英語による講義や海外研修などを通して、グローバル社会を分析するツールとしての英語力を身につけます。
	特色 K	入学後3年で卒業することも可能で、卒業後は国内外の大学院や国際インターンシップなど多様な進路選択ができます。
	特色 L	他学部や大学院の開講科目が受けやすくなるため、幅広い学修や学部時代から高度な研究にふれることが可能になります。
	特色 M	専門科目を通して社会データの科学的分析法やメディア分析法を学び、グローバル社会を分析する力が身につきます。

これらの特色について魅力を感じるかどうかを尋ねたところ、「魅力を感じる」と答えた企業は、社会学科の特色 H については 93.6%、メディア社会学科の特色 I については 88.6% となっており、9 割前後の企業が社会学部の取り組みを評価し、魅力を感じていることが分かった。また、新規に開設を予定しているグローバル・データサイエンスコースに関しては、特色 J・L・M については 85% 以上の企業が、特色 K については 74.3% の企業が「魅力を感じる」と回答しており、社会学部の新しい取り組みについても 7 割以上の企業が評価していることが明らかとなった（資料 30）。

第 3 は、社会学部 2 学科の社会的必要性に関する評価と採用ニーズについての調査結果である。両学科の社会的必要性については、社会学科については 95.3%、メディア社会学科については 93.1% と、両学科とも 9 割以上の企業から肯定的に評価されている（資料 31）。また、採用ニーズについても、社会学科については 92.3%（374 企業 / 405 企業）、メディア社会学科については 88.9%（360 企業 / 405 企業）と、9 割前後の企業から採用意向が示されている（資料 32）。これを各学科の増員後の定員数（社会学科 137、メディア社会学科 117）と比較した場合、いずれも約 3 倍の企業から採用意向が示されていることになる。また、こうした採用ニーズがある企業が、どのくらいの学生を確保したいか尋ねたところ、その合計は社会学科が毎年度 547 名、メディア社会学科が毎年度 549 名であった。なお、両学科とも、「人数未確定」が約 65% を占めるものの、社会学科で 15.8%、メディア社会学科で 17.5% の企業が「2 名以上」と回答し、両学科の卒業生への期待が伺えた（資料 33）。

このように、社会学部社会学科及びメディア社会学科の人材需要については、今回の調査結果を踏まえると、各学科に 12 名、学部合計で 24 名の入学定員を増加しても、その新たな供給は、現在の需要によって十分に満たされると考える。

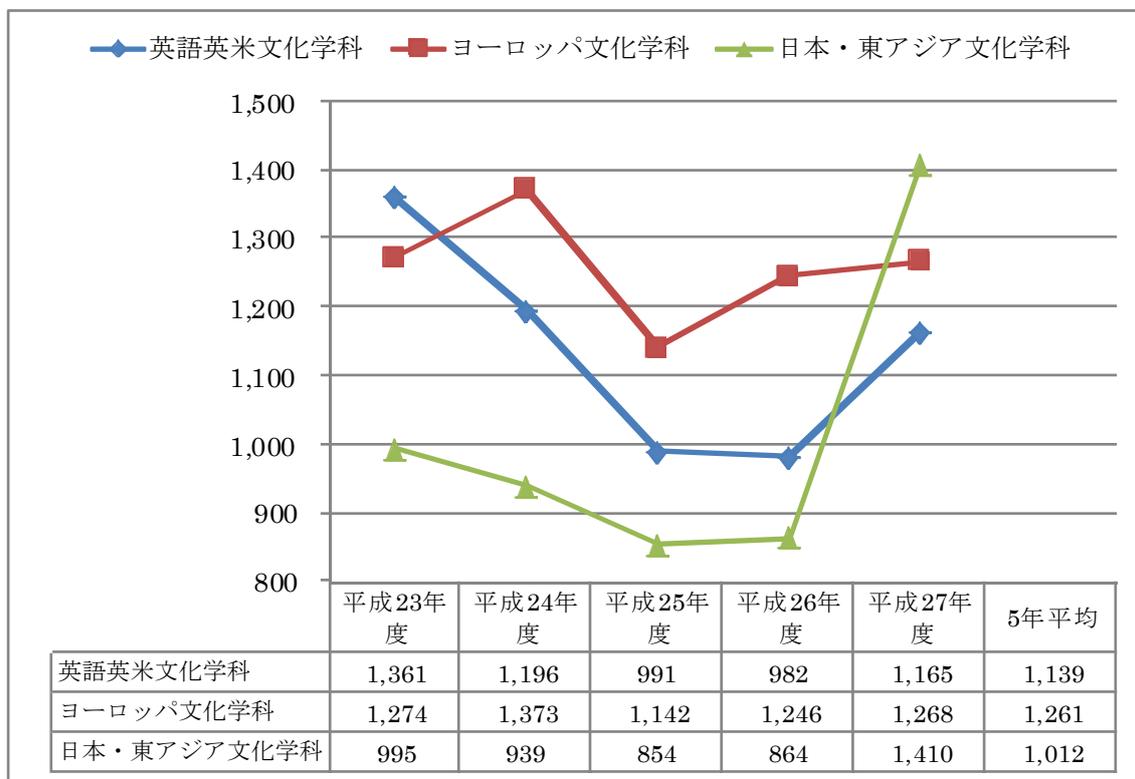
資料目次

資料1	人文学部3学科の受験者数の推移	p. 1
資料2	人文学部3学科の受験倍率(合格者÷受験者数)の推移	p. 2
資料3	人文学部3学科・武蔵大学全体・全国平均の就職率推移	p. 3
資料4	人文学部3学科の上場企業就職率の推移	p. 4
資料5	社会学部2学科の受験者数の推移	p. 5
資料6	社会学部2学科の受験倍率(合格者÷受験者数)の推移	p. 5
資料7	社会学部2学科・武蔵大学全体・全国平均の就職率推移	p. 6
資料8	社会学部2学科の上場企業就職率の推移	p. 7
資料9	高校生対象調査票	p. 8
資料10	調査票同封リーフレット(人文学部3学科)	p. 10
資料11	調査票同封リーフレット(社会学部2学科)	p. 12
資料12	高校生対象調査における回答者の属性	p. 14
資料13	人文学部3学科入学者の出身地別割合(平成27年度)	p. 15
資料14	高校生対象調査:人文学部3学科及び学科横断グローバル・ スタディーズ・コースの魅力度(特色A~特色Gの7項目)	p. 17
資料15	高校生対象調査:人文学部3学科及び社会学部2学科への 受験意向・入学意向	p. 20
資料16	高校生対象調査:人文学部3学科への入学意向	p. 21
資料17	高校生対象調査:人文学部3学科入学意向者の高校所在地と 希望進路	p. 22
資料18	高校生対象調査:人文学部3学科の興味関心別入学意向者数	p. 23
資料19	社会学部2学科入学者の出身地別割合(平成27年度)	p. 24
資料20	高校生対象調査:社会学部2学科及びグローバル・データ サイエンスコースの魅力度(特色H~特色Mの6項目)	p. 25
資料21	高校生対象調査:社会学部2学科への入学意向	p. 28
資料22	高校生対象調査:社会学部2学科入学意向者の高校所在地と 希望進路	p. 29
資料23	本学のオープンキャンパス来場者数と志願者数の推移	p. 30
資料24	企業対象調査票	p. 31
資料25	企業対象調査における回答者の属性	p. 35
資料26	企業対象調査:人文学部3学科及び学科横断グローバル・ スタディーズ・コースの魅力度(特色A~特色Gの7項目)	p. 38

資料27	企業対象調査：人文学部3学科の社会的必要性に関する評価	p. 41
資料28	企業対象調査：人文学部3学科の卒業生に対する採用意向	p. 42
資料29	企業対象調査：人文学部3学科の卒業生に対する毎年度の 採用想定人数	p. 44
資料30	企業対象調査：社会学部2学科及びグローバル・データ サイエンスコースの魅力度（特色H～特色Mの6項目）	p. 46
資料31	企業対象調査：社会学部2学科の社会的必要性に関する評価	p. 49
資料32	企業対象調査：社会学部2学科の卒業生に対する採用意向	p. 50
資料33	企業対象調査：社会学部2学科の卒業生に対する毎年度の 採用想定人数	p. 51

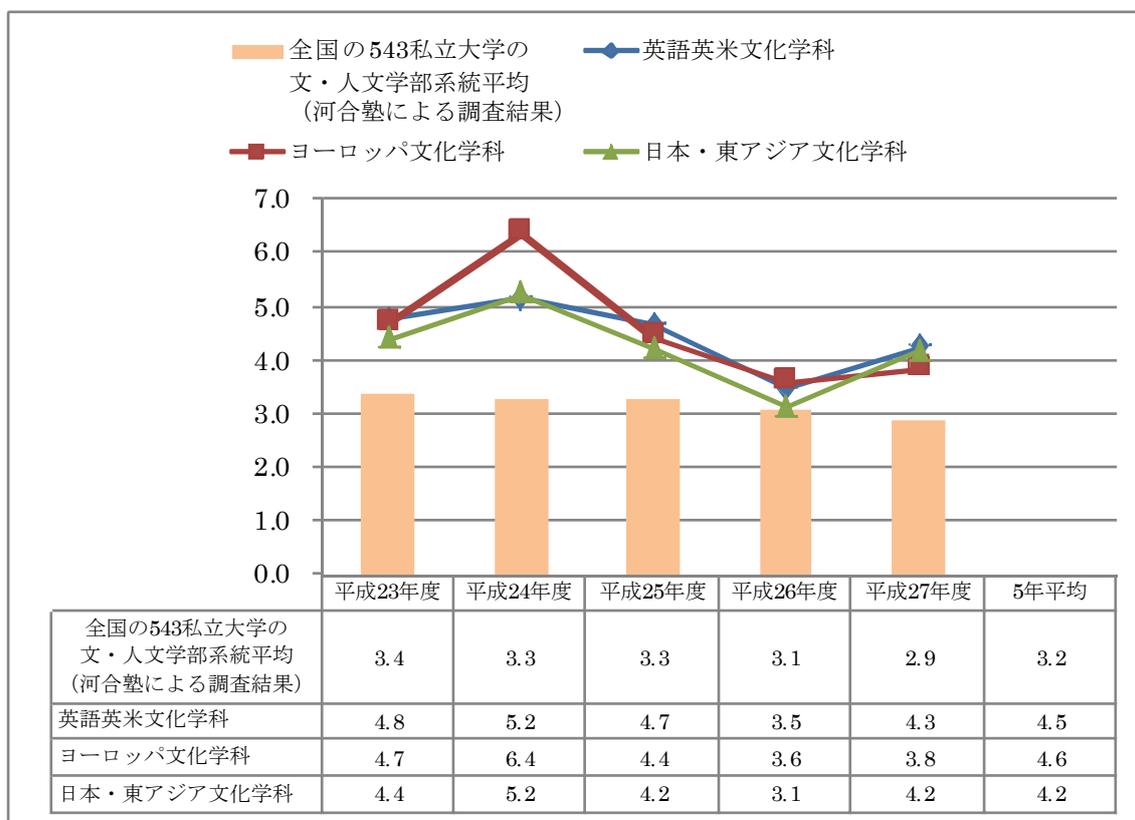
注) 平成22年度の人文学部3学科の名称は、英米比較文化学科、ヨーロッパ比較文化学科、
日本・東アジア比較文化学科であり、平成23年度に名称変更を行い現在の学科名となっている。

資料 1 人文学部 3 学科の受験者数の推移



注) 横軸は入試年度

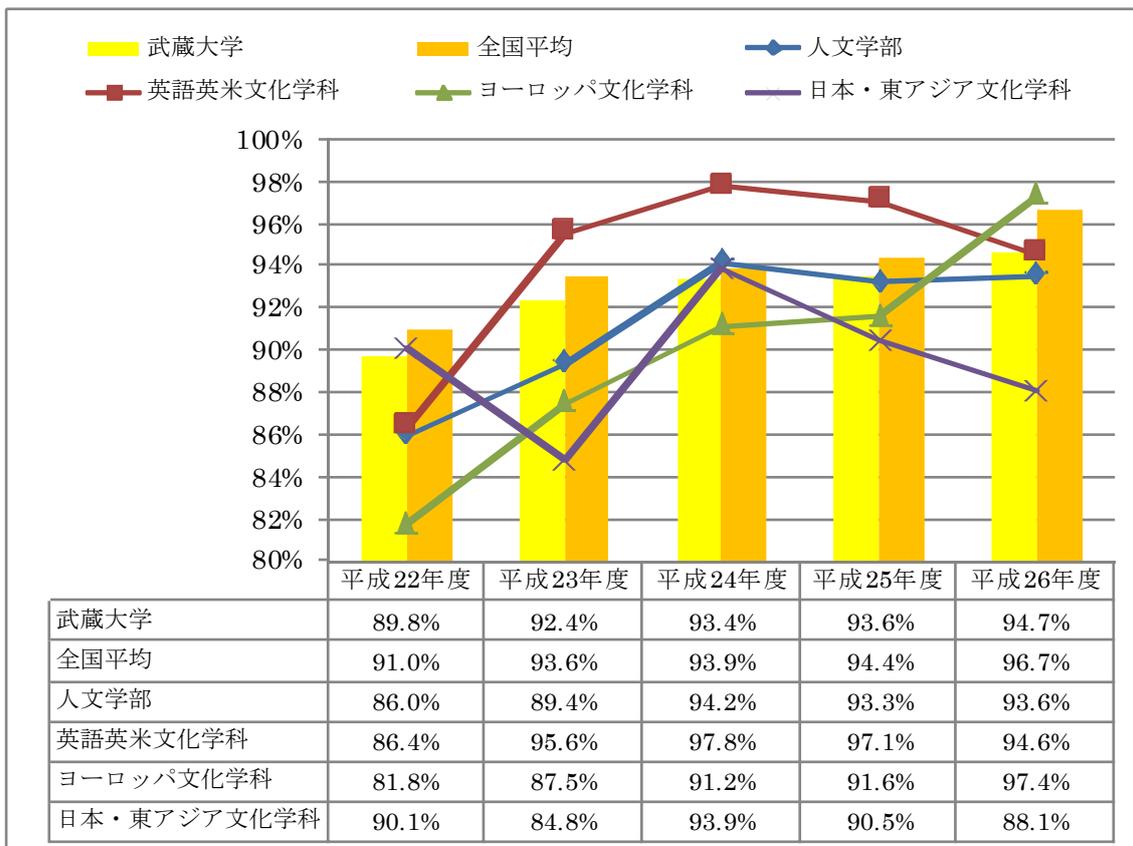
資料 2 人文学部3学科の受験倍率（合格者÷受験者数）の推移



注) 横軸は入試年度

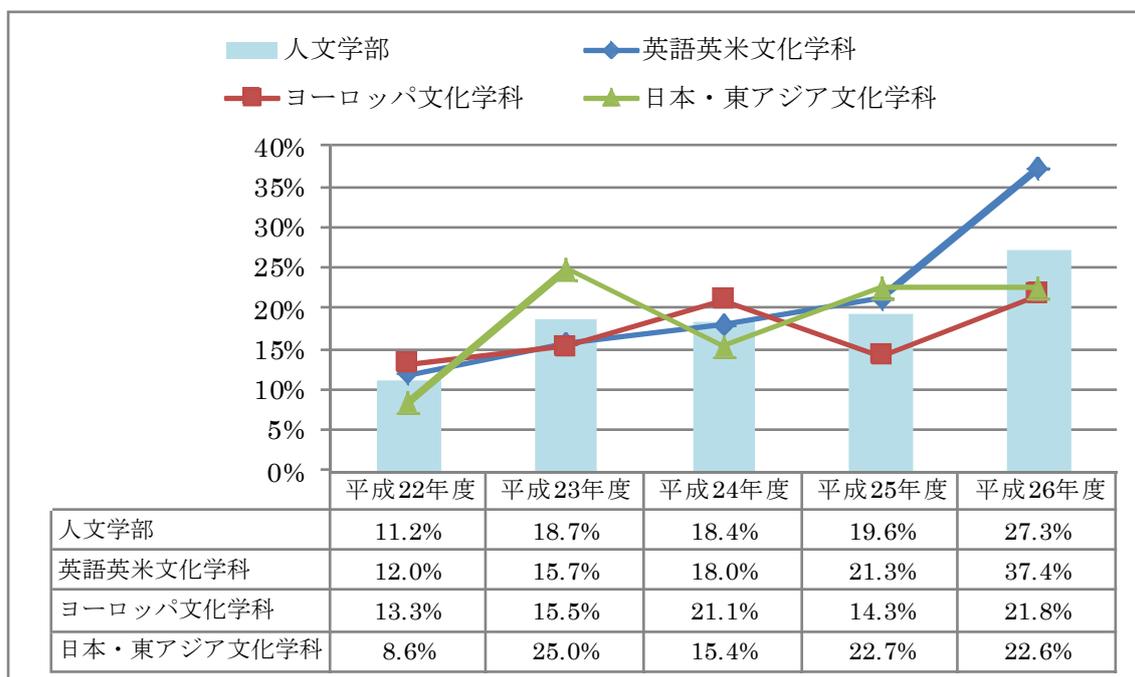
注) 全国の543私立大学の文・人文学部系統平均（河合塾による調査結果）の数値は、志願倍率

資料 3 人文学部 3 学科・武蔵大学全体・全国平均の就職率推移

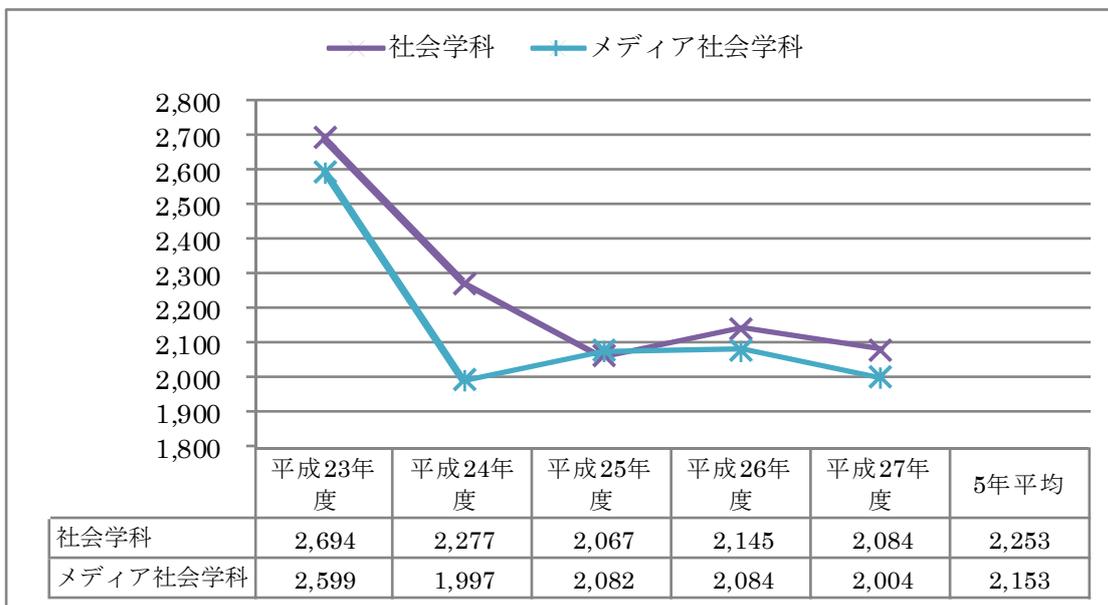


注) 全国平均は、厚生労働省・文部科学省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」を資料とした

資料 4 人文学部 3 学科の上場企業就職率の推移

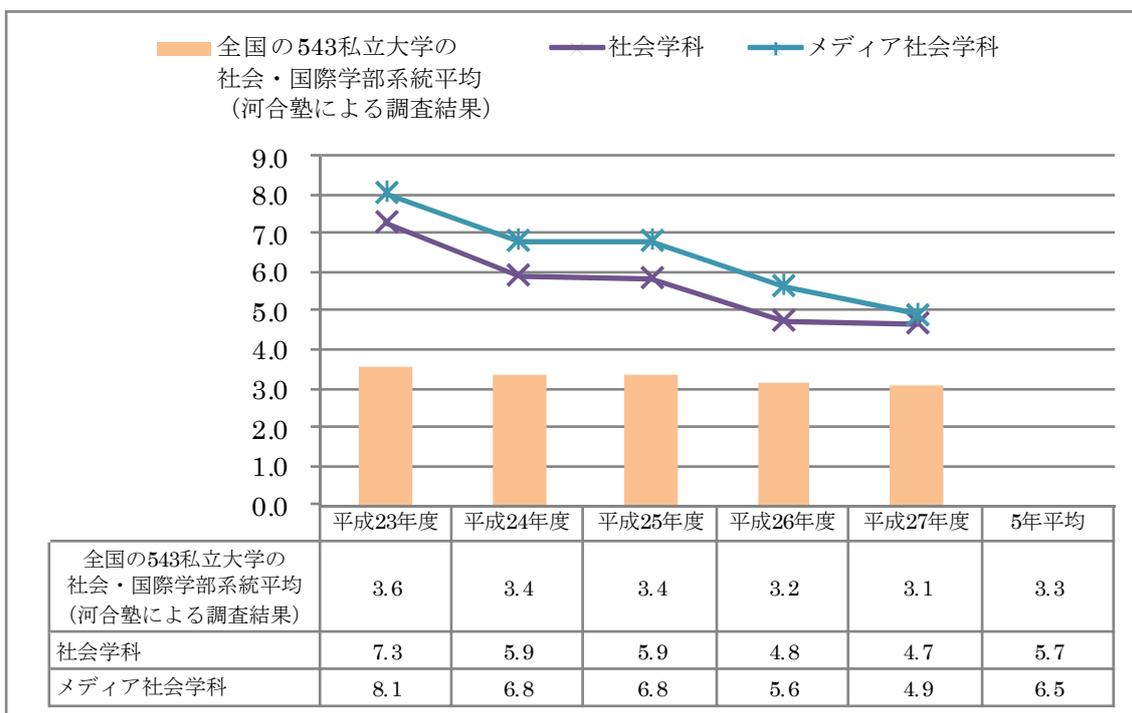


資料 5 社会学部2学科の受験者数の推移



注) 年度は入試年度

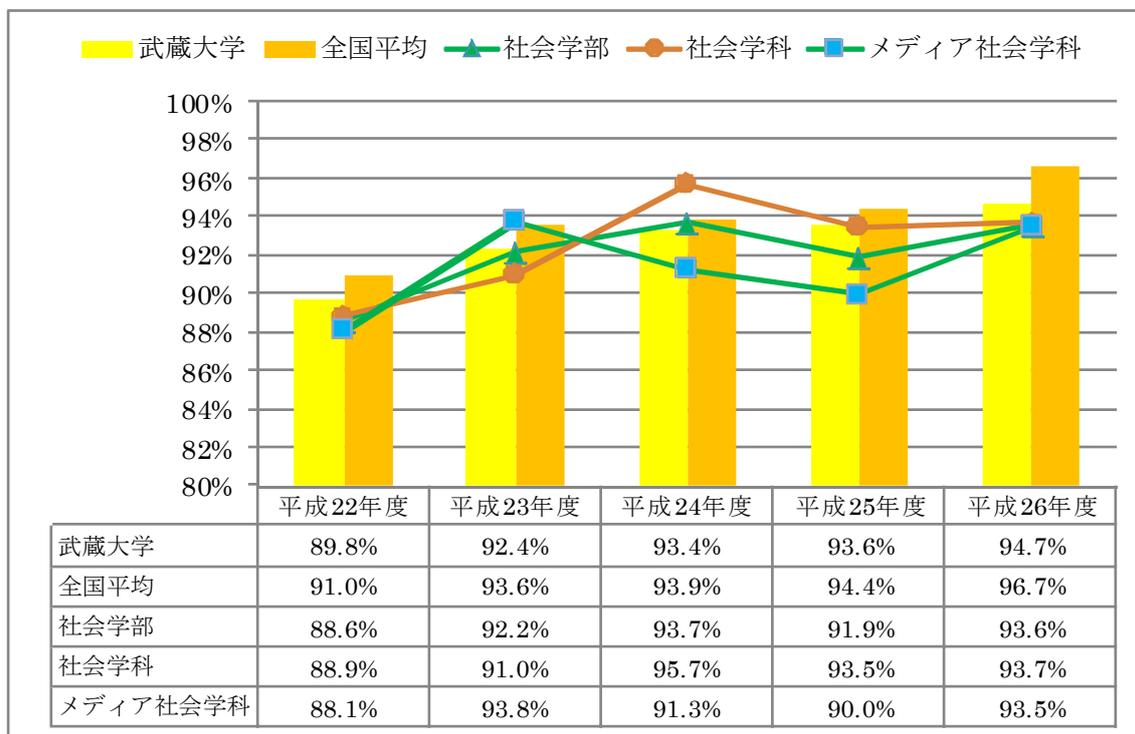
資料 6 社会学部2学科の受験倍率(合格者÷受験者数)の推移



注) 横軸は入試年度

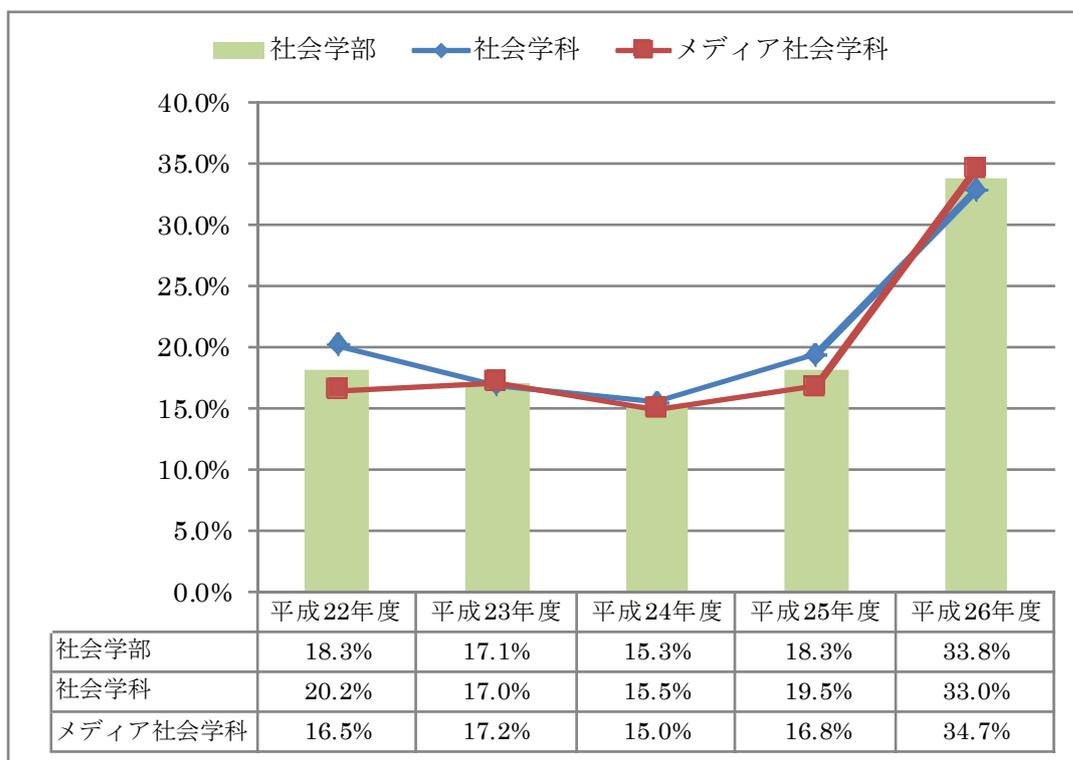
注) 全国の543私立大学の文・人文学部系統平均(河合塾による調査結果)の数値は、志願倍率

資料 7 社会学部2学科・武蔵大学全体・全国平均の就職率推移



注) 全国平均は、厚生労働省・文部科学省「大学等卒業予定者の就職内定状況調査」を資料とした

資料 8 社会学部 2 学科の上場企業就職率の推移



15030

◆武蔵大学「人文学部」「社会学部」についてお聞きします。
ここからは、アンケートに同封している資料を見てからお答えください。

- Q3. 武蔵大学「人文学部」「社会学部」の各学科および新しい選択枠である人文学部の「グローバル・スタディーズ・コース」、社会学部の「グローバル・データサイエンス コース」には以下の特色があります。それぞれについて、あなたはどの程度魅力を感じますか。
(それぞれあてはまるものを1つだけ)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
例.		<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
人文学部	A 英語圏の文化を学び、コミュニケーション力を身につけます。GSC英語プログラム導入に合わせ、従来のコースにおいても英語学習を強化します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B 3-Rays「世界の文化を学び、語学力を身につけます。GSCの特組みで英語だけでなく、ドイツ語、フランス語の強化プログラムも新たに提供します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C 日本・東アジアの文化を学び、語学力を身につけます。GSCの特組みで英語だけでなく、中国語、韓国・朝鮮語の強化プログラムも新たに提供します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	D クォーター制度を導入し、集中的な英語教育で、英語による専門的講義やゼミを受講するための高い英語力が身につきます(英語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	E 専門科目には3つのテーマ群があり、グローバルに活躍する力や英語を使った情報発信力が身につきます(英語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	F 短期・長期の留学をはじめ多様なグローバル体験ができます。奨学金制度・奨励制度が参加を後押しします(全ての英語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	G 武蔵大学の伝統・実績ある少人数教育で、外国人教員からのきめ細かなサポートが受けられます(全ての英語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
社会学部	H 社会学の基礎的な理論とデータの収集・分析法を学び、現代社会の諸問題を把握、分析する力が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	I 情報の意味を読み解き、現代社会とメディアの関係を深く学び、メディアを活用する力が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	J 英語による講義や海外研修などを通して、グローバル社会を分析するツールとしての英語力を身につけます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	K 入学後3年で卒業することも可能で、卒業後は国内外の大学院や国際インターンシップなど多様な進路選択ができます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	L 他学部や大学院の開講科目が受けやすくなるため、幅広い学修や学部時代から高度な研究にふれることが可能になります。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
M 専門科目を通して社会データの科学的分析法やメディア分析法を学び、グローバル社会を分析する力が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

- Q4. あなたは、武蔵大学「人文学部」「社会学部」を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

受験したいと思う 受験したいと思わない

- Q5. あなたは武蔵大学「人文学部」「社会学部」を受験して合格したら、どの学部・学科に入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近いもの1つをお選びください。(1つだけ)

【人文学部】 英語英米文化学科 ヨーロッパ文化学科 日本・東アジア文化学科
【社会学部】 社会学科 メディア社会学科
 この中にはない

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

人文学部の全ての学科で定員を増やして新生を募集 (予定)

Global Studies Course

武蔵大学人文学部3学科横断型 グローバル・スタディーズ・コース (GSC) ☆☆☆

飛び立て 世界へ!

英語英米文化学科の学び

英語コミュニケーション、英語教育、文学、芸術、歴史、社会、思想、宗教、ツーリズムと観光文化などの分野に取り組みます。新たにGSC (英語プログラム) が導入されます。

ヨーロッパ文化学科の学び

言語・文学、芸術・生活、歴史・思想、環境・社会などの分野に取り組みます。GSCの英語プログラムに加えてドイツ語プログラムとフランス語プログラムも導入、国際交流の多様化を推進します。

日本・東アジア文化学科の学び

言語・文学・思想、芸術・身体・環境、歴史・民俗・宗教などの分野に取り組みます。GSCの英語プログラムに加えて中国語プログラムと韓国・朝鮮語プログラムも導入、国際交流の多様化を推進します。

What is "Global Studies" ?

現代社会には、国家や民族の枠組みを超えて生じている現象や取り組むべき課題が数多くあります。たとえば電子化された各種の情報は日進月歩のICT技術によって瞬時に世界中に拡散されています。文化・芸術・流行も驚異的なスピードで地球を駆け巡っています。企業活動がいっそう世界的に展開されていることは周知の事実です。紛争解決、地球環境の保全、開発援助などは、いうまでもなく国家の枠組みを超えて取り組むべき課題です。一国内政や外交も、こうした現象に対応して質的転換を遂げています。

グローバル・スタディーズとは、このような21世紀の世界で活躍できる知力と実践力を備えた人を育てる新しい研究教育分野です。この新分野においても武蔵大学の伝統である少人数のゼミ制度を保ち、各ゼミは10名前後で運営します。専門コーチという補習スタッフもいます。英語プログラム以外のグローバル・スタディーズ・コースはヨーロッパ文化学科と日本・東アジア文化学科の学修分野に即して編成します。

Point

身につく高い英語力

GSCはクォーター制度をもとにした学期運営により集中的な英語教育を提供します。1年次には、第1クォーター(4~5月)で、同一教材による1週4連続授業や英語による基礎的講義を受け、第2クォーター(6~7月)には海外での特訓講座に参加します。英語による専門的講義やゼミを受講する英語力を確実に身につけることが目的です。卒業時の到達目標は、TOEIC® 800点以上、TOEFL iBT® 80以上、IELTS™ 6.5以上としています。

Point

グローバル人材を育てるテーマ群

GSCの専門科目には3つのテーマ群があります。世界中の人々を取り組んでいるグローバルな課題(平和の維持や環境保護)について学ぶ「グローバル・リレーションズ」(国際関係)、世界各地で英語を使って生み出されている文学を教材にする「グローバル文学」、日本文化をグローバルな視点で学ぶ「グローバル日本学」です。これらの学びを通じてグローバルに活躍する力や英語を使った情報発信力が得られます。

Point

多様なグローバル体験

GSCでは6ヶ月または1年間の留学を求めます。また各種の実践的な短期プログラム、海外の大学での学位取得プログラムなど、多様な「グローバル体験モジュール」を提供します。各種の奨学金制度・褒賞制度を用意して参加を後押しします。

入学定員増

英語英米文化学科	100名 → 115名	ヨーロッパ文化学科	100名 → 105名	日本・東アジア文化学科	100名 → 105名
----------	-------------	-----------	-------------	-------------	-------------

※入学定員の増員は構想中の内容であり、今後変更となる場合があります。

履修モデル (英語プログラム) (学位名称:学士(人文学)) ※授業科目構想中

GSCでは外国語科目としての英語の授業だけでなく、専門科目の講義やゼミナールも英語で授業がおこなわれます。英語プログラム以外のGSCはヨーロッパ文化学科と日本・東アジア文化学科の学修分野に即して編成します(初習者のために段階的に外国語による授業を増やします)。

1年次前期	1年次後期	2年次	3年次	4年次
English (週4日)	海外英語 集中学習プログラム	English (週4日)	English (週3日)	Capstone Project ゼミナール形式でおこなう、英語による卒業論文の作成等のプロジェクト科目
基礎ゼミナール1・2		専門ゼミナール1・2		
総合科目 (講義科目・実務科目)				
専門科目 (講義科目)				

※3年次に1年間留学に行った場合、6ヶ月間の留学も選択できます。

総合科目 (基礎的教養を身につけるための科目群)

- Information Technology and Global Communication
- Introduction to Global History
- Japan and Japanese Culture in a Global Context
- Contemporary Global Economy
- Human Rights and Democracy in a Global Context
- Global Environmental Issues
- Career Design in a Global Age
- Global Internship for Japanese and Non-Japanese Students

専門科目 (講義科目)

テーマ群 Global Relations

- Introduction to Global Civics 1・2
- Introduction to Global Futures Studies 1・2
- Transnational Issues 1・2 / Political Communication 1・2

テーマ群 Global Literatures

- Global Literatures in English 1・2
- Introduction to Cultural Studies 1・2
- Migration and Literature 1・2 / World Englishes 1・2

テーマ群 Global Japanese Studies

- Cultural Exchange in East Asia 1・2
- Japanese Culture in Global Perspective 1・2
- Global Fieldwork: Environmental Problems in Cultural Perspective

※以上の科目他に、「共通専門科目」という科目群からも選択履修できます。

外国語科目

- English I (1)(2)
- English II (1)(2)
- 選択外国語A(1)(2)

ゼミナール科目

- 基礎ゼミナール1・2
- Global Relation Seminar 1・2
- Global Literatures Seminar 1・2
- Global Japanese Studies Seminar 1・2

留学協定校 ※協定締結手続き中の大学

- イギリス**
 - ケント大学
- アメリカ**
 - オハイオ大学
 - ハワイ・パシフィック大学
 - アデルファイ大学
 - テンブル大学
 - ペース大学
- カナダ**
 - ブリティッシュコロンビア大学
- オーストラリア**
 - ディーキン大学
- オランダ**
 - フォンテス・インターナショナル・ビジネス・スクール
- ドイツ**
 - パッサウ大学
 - マルティン・ルター大学ハレ・ヴィッテンベルク
- フランス**
 - パリ第七大学
 - リヨン第三大学
- 韓国**
 - 高麗大学
- 台湾**
 - 国立政治大学
- 中国**
 - 西安外国語大学
 - 南開大学

英語圏・非英語圏の複数の大学と**ダブルディグリー協定**を準備中。外国の大学の学位が同時に取得できるようになります。



同系統分野の大学・学部・コース (一例)

早稲田大学	国際教養学部
明治大学	国際日本学部
上智大学	国際教養学部
国際基督教大学	教養学部
法政大学	国際文化学部
成蹊大学	成蹊国際コース

初年度納付金 (変更になる場合があります)

	前学期	後学期	年額
入学金	270,000円		270,000円
学費	授業料	370,000円	740,000円
	維持費	150,000円	300,000円
	計	520,000円	1,040,000円
委託徴収諸会費	28,900円		28,900円
コース指導料*	60,000円	60,000円	120,000円
初年度合計	878,900円	580,000円	1,458,900円

※GSC所属学生のための課外学習支援(コーチング)、授業以外の特別プログラム、学外試験等に関する指導のために課されるものです。

建学の三理想

1. 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
2. 世界に雄飛するにたえる人物
3. 自ら調べ自ら考える力ある人物

人文学部の教育研究上の目的

人文学部は、幅広い教養及び人文学諸分野における高度な専門的知識を備えた人材を育てている。ゼミナールを軸とした対話型の指導によって、論理的な思考力、表現力、構想力を培い、世界の諸文化の間の差異を認識して他者を尊重する精神を養い、かつ主体的に行動する姿勢を身につけさせている。また、地球市民として、高い言語能力と国際感覚をもって各種の課題解決に取り組む人材の養成を目標としている。



武蔵大学 大学企画室
 〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1
 TEL:03-5984-3703

【主要駅からのアクセス】

池袋駅	西武池袋線	7分	江古田駅	徒歩 6分
新宿駅	都営大江戸線	15分	新江古田駅	徒歩 7分
	東京メトロ副都心線	17分	新桜台駅	徒歩 5分
有楽町駅	東京メトロ有楽町線	27分		

※各駅停車にお乗りください。 ※小竹向原駅から西武有楽町線となります。



武蔵大学 Global Data-science Course

社会学部 グローバル・データサイエンス コース (構想中)

データ分析と語学力でグローバル社会をつかめ

point 1 データを分析するスキル

1年次はグローバル社会を分析するための基礎的ツールとして英語や英語による講義を集中的に学び、海外での語学研修も用意されています。2年次以降は、希望により協定留学、国際インターシップ、あるいは海外大学等の学位取得プログラムなど複数の道が開かれています。

point 2 早期卒業で高度専門性

入学後3年での卒業が可能です(予定)。卒業後は国内や海外の大学院をはじめ、国際インターシップや国際ボランティアなど多様な進路選択ができます。

※卒業に必要な単位数は通常の4年卒業と変わりません。また成績(GPASコア)等の条件があります。

point 3 幅広い学修と高度な研究

コース履修者には、他学部講義の履修制限や大学院開講科目の履修について制限が緩和されます(予定)。これにより、幅広い知識を得、なおかつこれまでより深い学修が可能になります。研究水準の内容を学部時代に取り入れます。

point 4 グローバル社会を分析

専門科目の「ビッグデータ解析論」「メディア分析法」「グローバル社会論」(いずれも予定)などを学び、幅広く深い知識を背景に社会データの科学的分析法やメディア分析法を身につけ、世界に通用する人材となることができます。

※社会学科とメディア社会学科どちらからもコースを選択できます

社会学科の特色

社会学の基礎から実践までを体系的に学ぶ学科です。全員がデータ収集・分析の調査手法を学び、グローバル化する現代社会や人間の様々な問題を科学的に分析、把握できるようになります。同時に社会学の基礎的理論を学び諸問題の背景や原因について深く理解できるようになります。【学位名称:学士(社会学)】

メディア社会学科の特色

情報の意味を読み解き、現代社会とメディアの関係を深く学ぶ学科です。メディア社会学実習やゼミなどを体験していく中で、社会や人間とメディアの関係を深く理解していくことができるようになります。また、多様なメディアを用いて社会的意義のあるメッセージを発信できるようになります。【学位名称:学士(社会学)】

MUSASHI
UNIVERSITY

入学定員増員 (構想中)
社会学科 125名 → 137名
メディア社会学科 105名 → 117名

※入学定員の増員は構想中の内容であり今後変更となる可能性があります

カリキュラム (抜粋) *表中に記載されている科目は、構想されている科目のご一部です。

■ 社会学科				■ メディア社会学科			
1年次	2年次	3年次	4年次	1年次	2年次	3年次	4年次
社会学基礎ゼミ		社会学専門ゼミ	社会学専門ゼミ 卒業論文	ゼミ科目	ゼミ科目	メディア社会学専門ゼミ	メディア社会学専門ゼミ 卒業論文・卒業制作
社会学情報処理基礎 社会学方法論基礎	社会学調査実習	社会学調査方法論	社会学統計学 エスノメソドロジー	方法科目	方法科目	メディア社会学実習	メディア社会学実習
社会学原論	社会学理論	社会学史		理論科目	理論科目	メディア社会学 社会学原論	メディア社会学文献講読 コミュニケーション論 メディア学歴史
都市社会学 福祉社会学 グローバリゼーションの人類学 国際社会学 環境社会学				専門科目	専門科目	マスコミュニケーション論 ジャーナリズム論 マンガの社会学 メディア文化論 メディア法制と倫理 メディア産業論	
コミュニケーションの社会学 音楽文化の社会学 文化人類学 芸術と文化の社会学 ジェンダーの人類学 ネットワークの社会学 スポーツ社会学 観光人類学				展開科目	展開科目	パブリックコミュニケーション論 広告論 市民メディア論 スポーツとメディア 知的財産・著作権論 Webシステム論	
アイデンティティの社会学 社会心理学 ジェンダーの社会学 遊びの社会学 恋愛の社会学 若者文化の社会学				専門科目	専門科目	メディアプロデュース論 出版メディア制作論 映像アーカイブ論 メディアリテラシー論 ゲームプロデュース論 ビジュアルアート論 CM企画・制作論	
社会学部特選 メディア社会学関連講義の理論科目・展開科目・方法科目				学部 共通科目	学部 共通科目	社会学部特選 社会学科関連の理論科目・展開科目・方法科目	
国際センター関連科目、教職・学芸員課程関連科目、経済学部・人文学部関連の専門科目の一部				全学対象 専門科目	全学対象 専門科目	国際センター関連科目、教職・学芸員課程関連科目、経済学部・人文学部関連の専門科目の一部	
必修外国語(英語) [必修]選択外国語/選択外国語(英/独/仏/中/韓/朝/西/伊/露)				外国語科目	外国語科目	必修外国語(英語) [必修]選択外国語/選択外国語(英/独/仏/中/韓/朝/西/伊/露)	
幅広い6つの分野の「講義セッション」と「実践セッション」から選択				総合科目	総合科目	幅広い6つの分野の「講義セッション」と「実践セッション」から選択	

■ コース履修モデル(授業科目構成中)

1年前期	1年後期	2年次	3年次	4年次
ゼミ科目 基礎ゼミ	基礎ゼミ	方法論ゼミ	専門ゼミ	卒業研究ゼミ 卒業論文・卒業制作
方法科目 情報ハンドリング基礎	メディアリサーチ データサイエンス入門	ビッグデータ解析論 社会学統計学 データマイニング メディア分析論 量的社会学調査方法論 質的 sociology 調査方法論 定性データ分析論 などから選択		
理論科目・ 展開科目 メディア社会学		グローバリゼーションと現代社会 グローバル時代のメディア社会学 国際社会学 エスニシティの社会学 環境と開発の人類学 情報の社会学 心理学 メディアリテラシー論 デジタル社会学 などから選択		
外国語科目 英語総合 専門英語	英語総合 専門英語	英語 中国語 韓国語 朝鮮語 ドイツ語 フランス語 英語などから選んで学修します。	選択外国語 中国語 韓国語 朝鮮語 ドイツ語 フランス語 英語などから選んで学修します。	
総合科目 クリティカルシンキング 論文の書き方		グローバル時代の歴史認識 人間と環境 臨床心理と人間理解 「情報とコミュニケーション」「現代社会」「自然と環境」など6分野(74科目)から選んで学修します。		

※社会学科、メディア社会学科ともに「グローバル・データサイエンスコース」以外のコースも設置されており、各自の研究分野に基づいてコースを選択することができます。



納付金一覧 (変更になる場合があります)

	前学期	後学期	年額
入学金	270,000円		270,000円
学費	授業料	370,000円	740,000円
	維持費	150,000円	300,000円
	計	520,000円	1,040,000円
委託徴収諸費	28,900円		28,900円
コース指導料*	30,000円	30,000円	60,000円
初年度合計	848,900円	550,000円	1,398,900円

※コース履修者のみの語学プログラムやデータ分析法指導に伴う実習費として課されるものです。

同系統分野の大学・学部・学科 (一例)

社会学科	メディア社会学科
青山学院大学 社会学部 社会学科	法政大学 社会学部 社会学科
法政大学 社会学部 社会学科	武蔵野大学 グローバル学部 グローバルコミュニケーション学科
武蔵野大学 グローバル学部 グローバルコミュニケーション学科	同志社大学 文化情報学部 文化情報学科
同志社大学 文化情報学部 文化情報学科	法政大学 社会学部 メディア社会学科
法政大学 社会学部 メディア社会学科	明治大学 情報コミュニケーション学部 情報コミュニケーション学科
法政大学 社会学部 メディア社会学科	津田塾大学 学芸学部 情報学科
明治大学 情報コミュニケーション学部 情報コミュニケーション学科	滋賀大学 データサイエンス学部(構想中)
津田塾大学 学芸学部 情報学科	
滋賀大学 データサイエンス学部(構想中)	

社会学科の教育研究上の目的

メディア社会学科の教育研究上の目的

建学の三理想

- 東西文化融合のわが民族理想を遂行し得べき人物
- 世界に雄飛するにたえる人物
- 自ら調べ自ら考える力ある人物

めまぐるしく変化する現代世界において、人権の尊重及び他者との共存の作法が切実に求められ、グローバルな視点で現代社会の問題状況を見据えつつ自己の生活を豊かにすることのできる新しい市民社会のあり方が模索されている。社会学科は、こうした状況認識のもと、4年間の少人数ゼミ・実習や卒業論文の執筆を通して、理論的に考察し、経験的に調査し、実践的に提言しうる課題解決能力を育て、行政機関・公共団体、企業や広告代理店、国際機関・NPO・NGO等で豊かな社会学的想像力をもって活躍しうる未来志向型の人材育成をはかっている。

社会の情報化が急速に進展するなか、あらゆる場面でメディアを批判的かつ正確に読み解く力とメディアを活用してオリジナリティのある情報を発信する力が求められている。メディア社会学科は、4年間の少人数ゼミ・実習や卒業論文・卒業制作を通して、社会学的な発想や理論的思考を基礎としつつ、豊かなメディアリテラシーとコミュニケーション能力、グローバルな情報発信力を備え、地域社会の活性化や課題解決に市民として取り組むことのできる人材、加えてジャーナリズムや媒体制作等、各種の企業・団体の第一線で活躍することのできる先端的知識と技能を有した人材を育成している。

武蔵大学 大学企画室

〒176-8534 東京都練馬区豊玉上1-26-1

TEL:03-5984-3703

ゼミの武蔵 社会学部 社会学科 メディア社会学科

【主要駅からのアクセス】

駅名	路線	所要時間	備考
池袋駅	西武池袋線	7分	※各駅停車にお乗りください。
新宿駅	都営大江戸線	15分	
渋谷駅	東京メトロ副都心線	17分	
有楽町駅	東京メトロ有楽町線	27分	※小竹向原駅から西武有楽町線とつながります。
江古田駅			徒歩 6分
新江古田駅			徒歩 7分
新桜台駅			徒歩 5分

武蔵大学

資料 12 高校生対象調査における回答者の属性

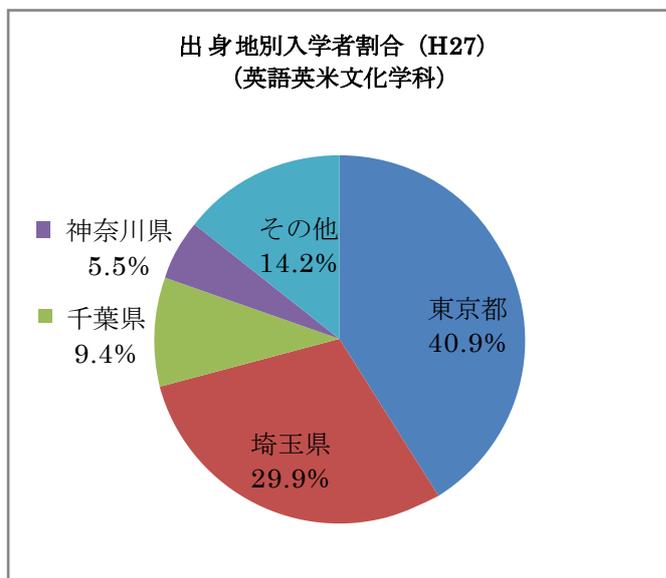
調査項目	回答項目	件数	割合
性別	男性	4,116	36.7%
	女性	7,005	62.5%
	無回答	88	0.8%
	合計	11,209	100.0%
高校所在地	東京都	5,836	52.1%
	埼玉県	2,869	25.6%
	千葉県	1,168	10.4%
	神奈川県	772	6.9%
	その他（北海道など36道府県）	564	5.0%
	合計	11,209	100.0%
高校種別	国立	5	0.0%
	公立	6,154	54.9%
	私立	5,050	45.1%
	合計	11,209	100.0%
所属クラス	文系クラス	7,049	62.9%
	理系クラス	1,165	10.4%
	コース選択はない	2,168	19.3%
	その他	401	3.6%
	無回答	426	3.8%
	合計	11,209	100.0%
進学希望 (※複数回答)	国公立大学に進学	2,618	23.4%
	私立大学に進学	9,093	81.1%
	専門学校・専修学校に進学	1,469	13.1%
	短期大学に進学	666	5.9%
	就職	359	3.2%
	その他	210	1.9%
	無回答	148	1.3%
	回答者数	11,209	—
興味のある学問系統	文学	3,471	31.0%

(※複数回答)	外国語学	2,321	20.7%
	国際関係学	1,877	16.7%
	社会学	1,611	14.4%
	経済・経営・商学	2,799	25.0%
	法学	1,267	11.3%
	教育学・教員養成	2,073	18.5%
	芸術学	1,497	13.4%
	生活科学	1,205	10.8%
	医学・歯学・薬学・看護・保健	1,275	11.4%
	理学・工学	1,050	9.4%
	農学・水産学	410	3.7%
	その他	791	7.1%
	まだ決めていない	437	3.9%
	無回答	99	0.9%
回答者数	11,209	—	

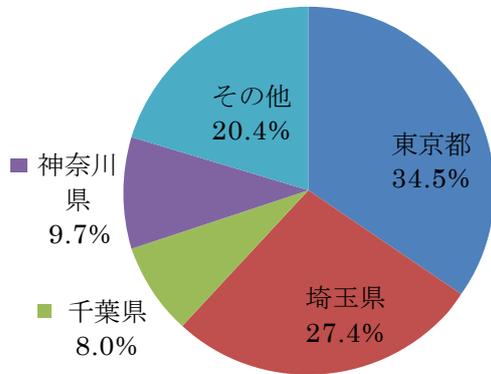
※複数回答のため、件数の合計は11,209にはならない。

割合は回答者数に対する数値のため、合計は100%にはならない。

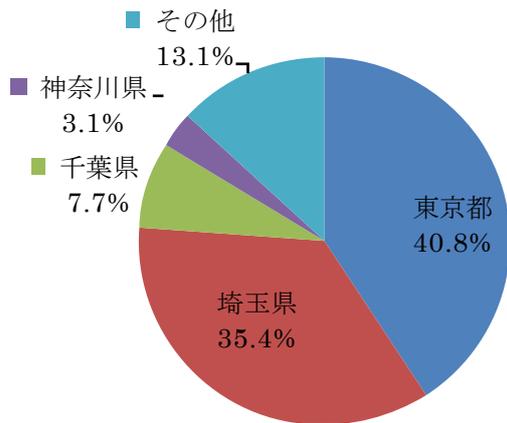
資料 13 人文学部3学科入学者の出身地別割合 (平成27年度)



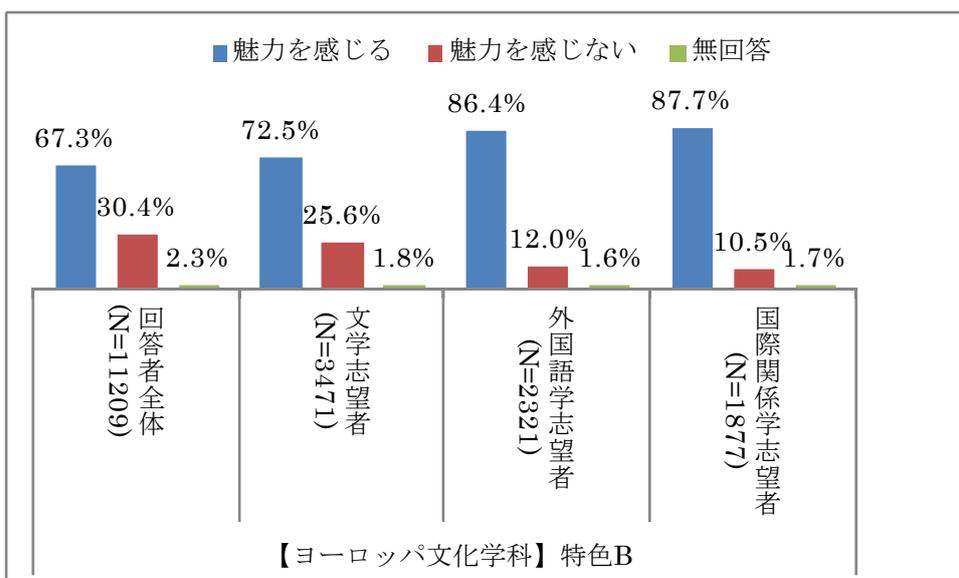
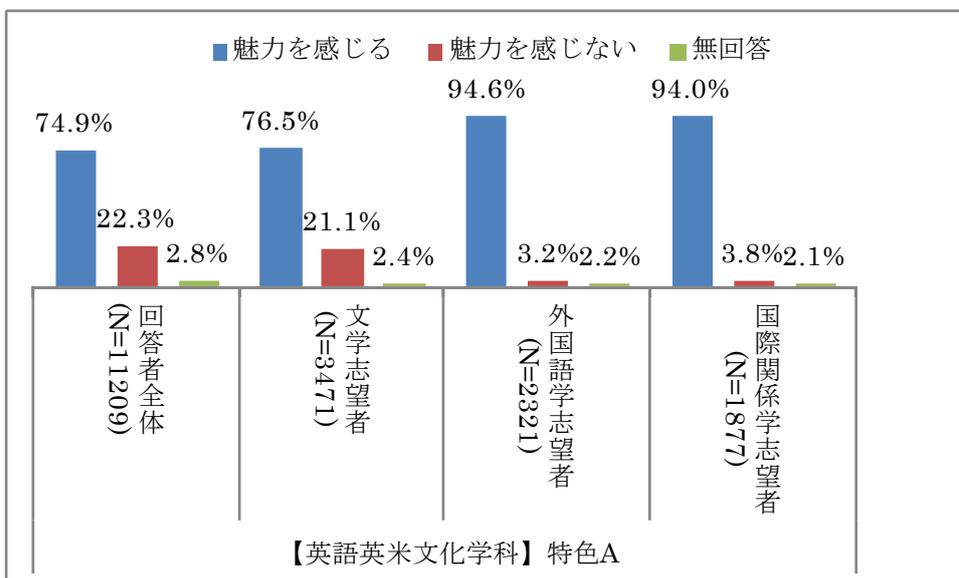
出身地別入学者割合 (H27)
(ヨーロッパ文化学科)

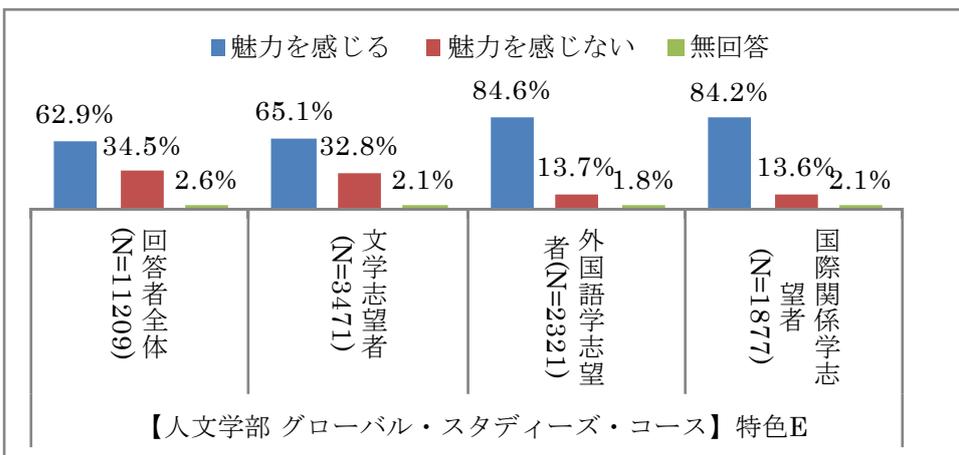
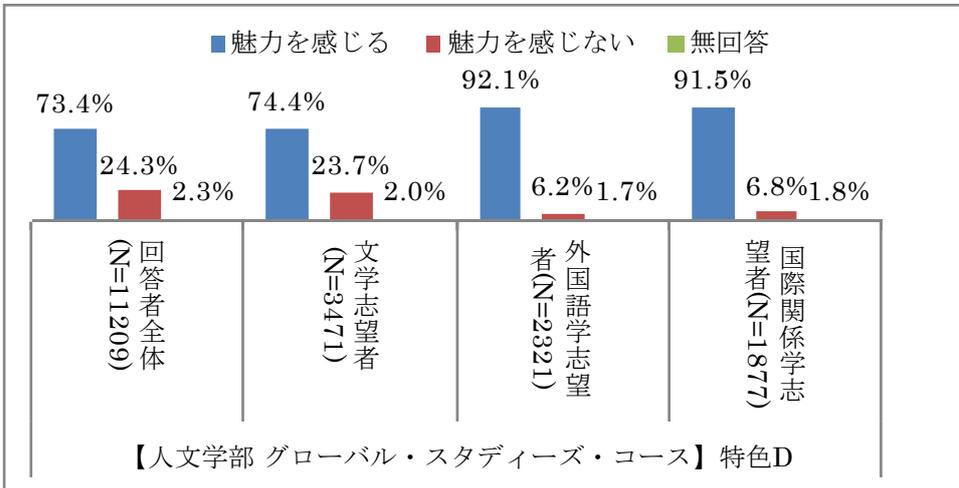
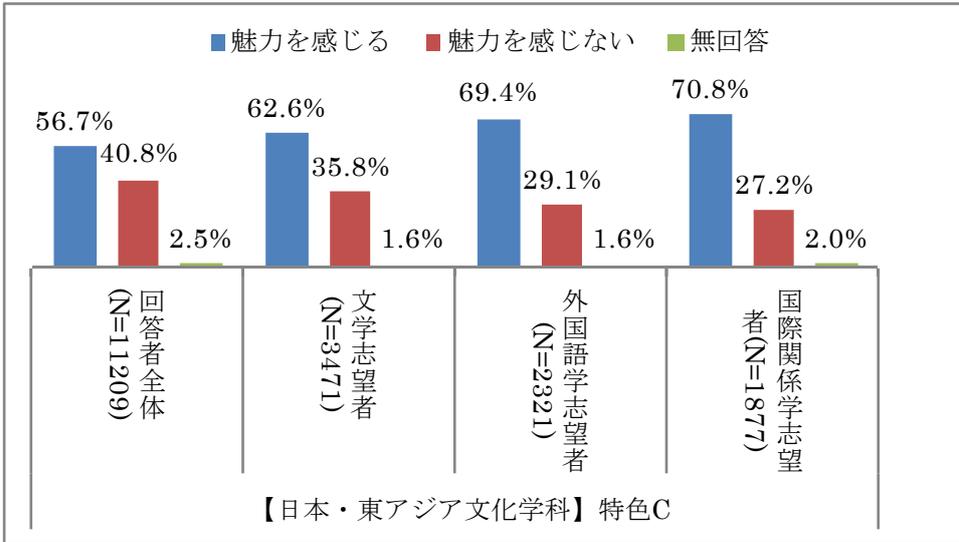


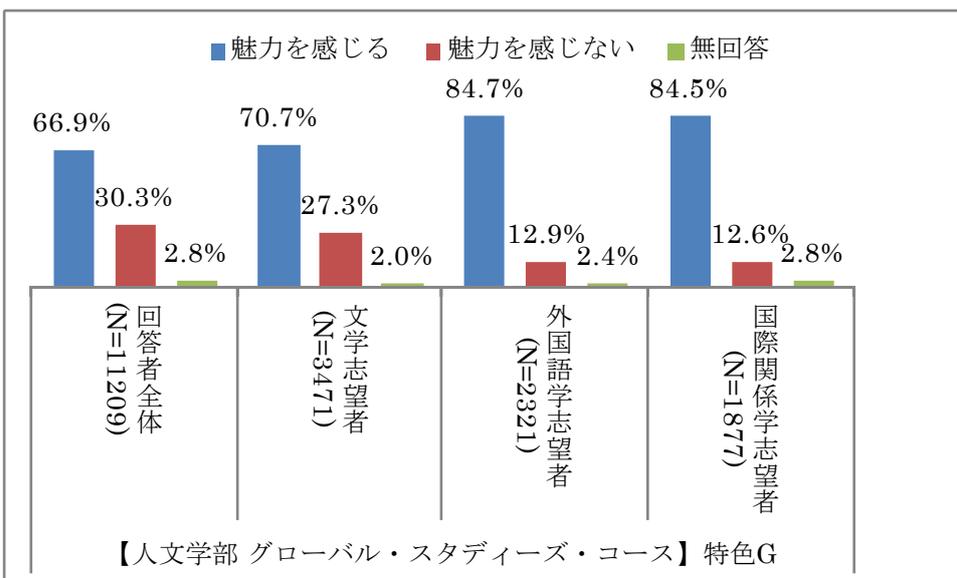
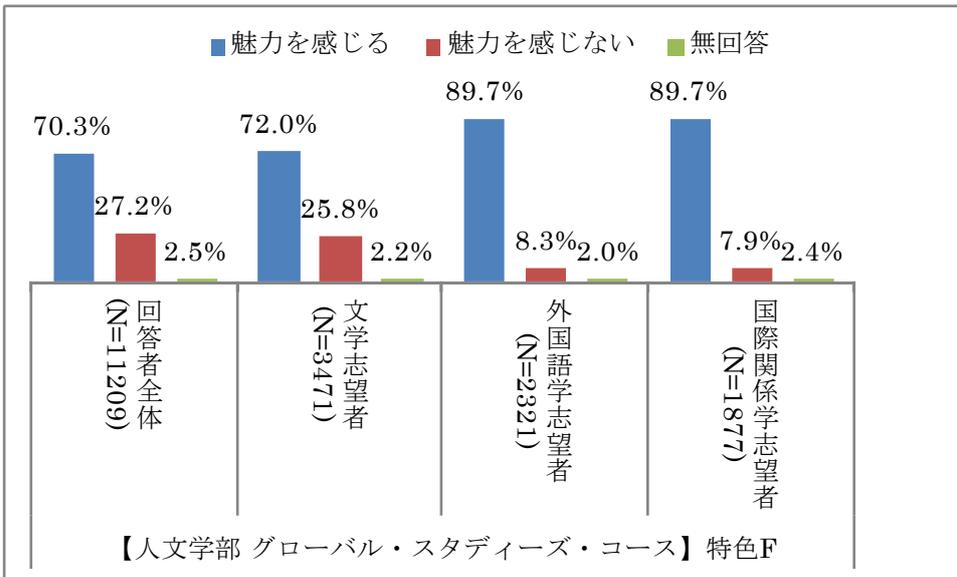
出身地別入学者割合 (H27)
(日本・東アジア文化学科)



資料 14 高校生対象調査：人文学部 3 学科及び学科横断グローバル・スタディーズ・コースの魅力度（特色 A～特色 G の 7 項目）

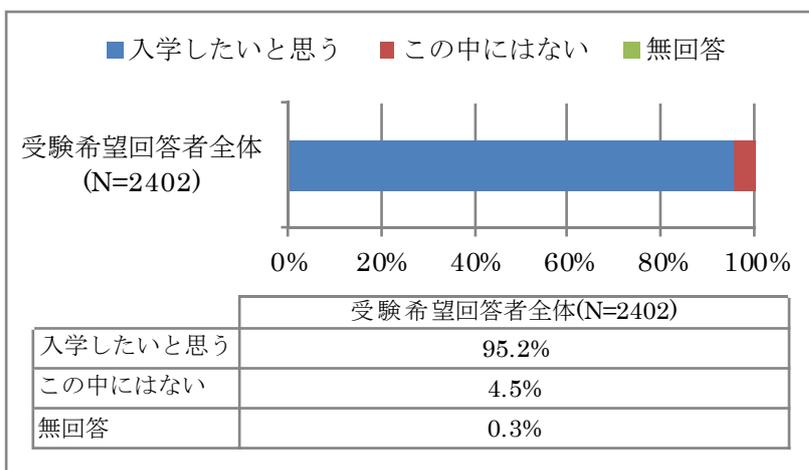
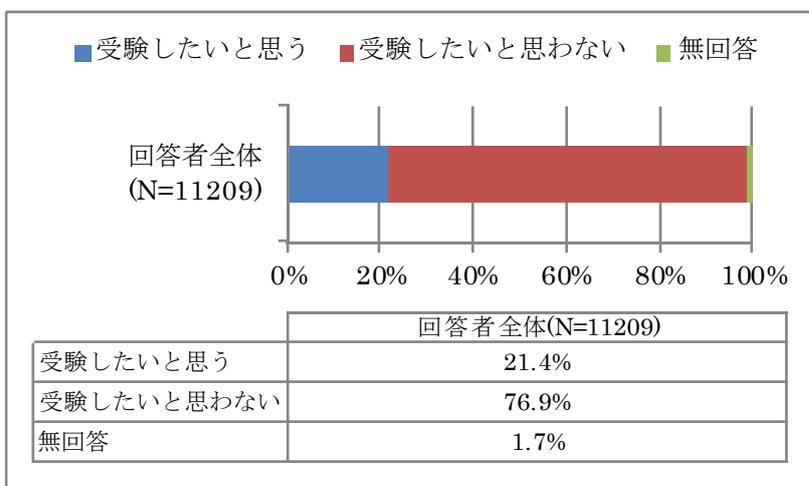




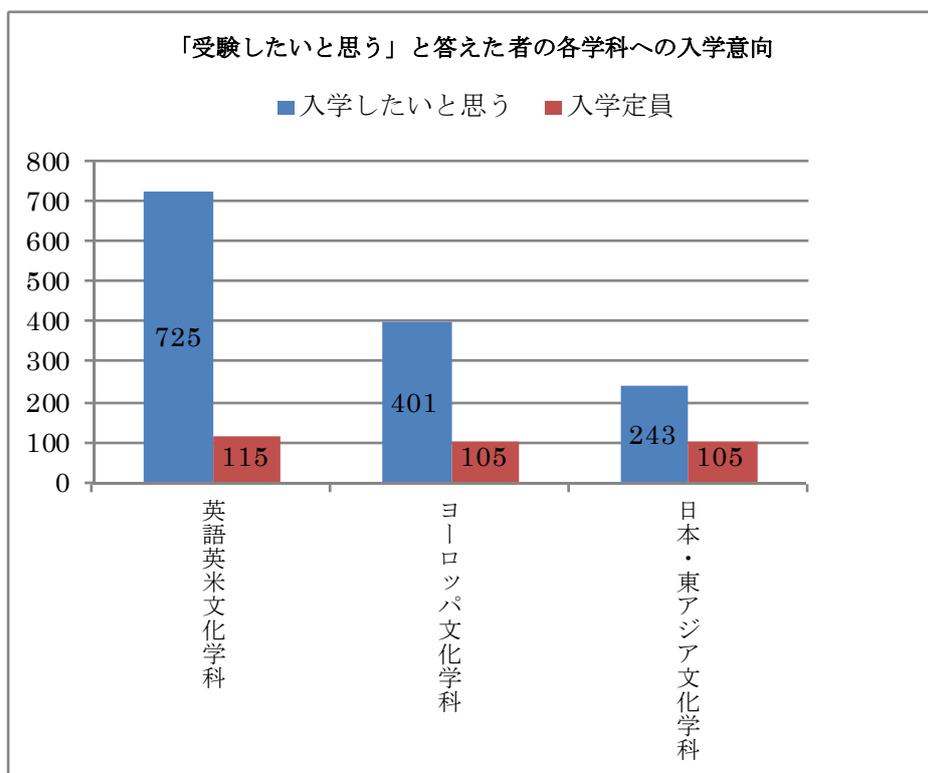


注) 「魅力を感じる」は、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計であり、「魅力を感じない」は「あまり魅力を感じない」と「まったく魅力を感じない」の合計である。

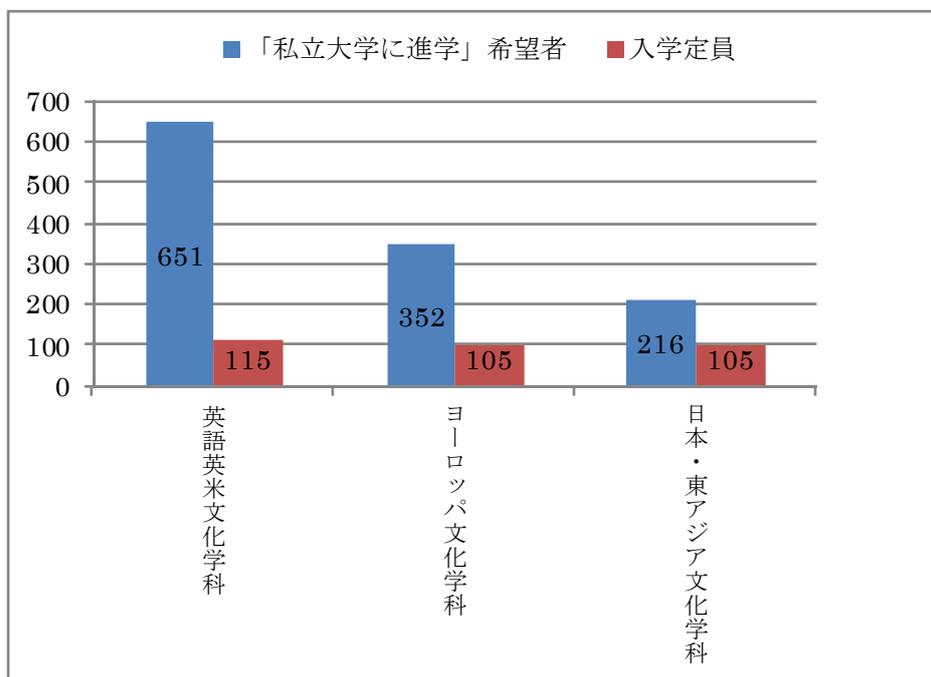
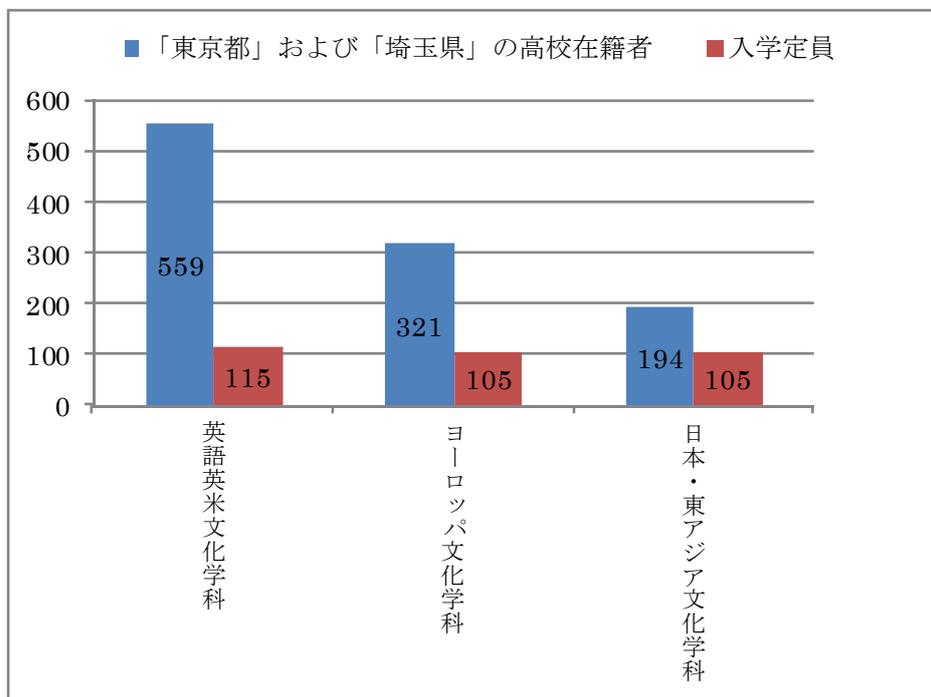
資料 15 高校生対象調査：人文学部3学科及び社会学部2学科への受験意向・入学意向



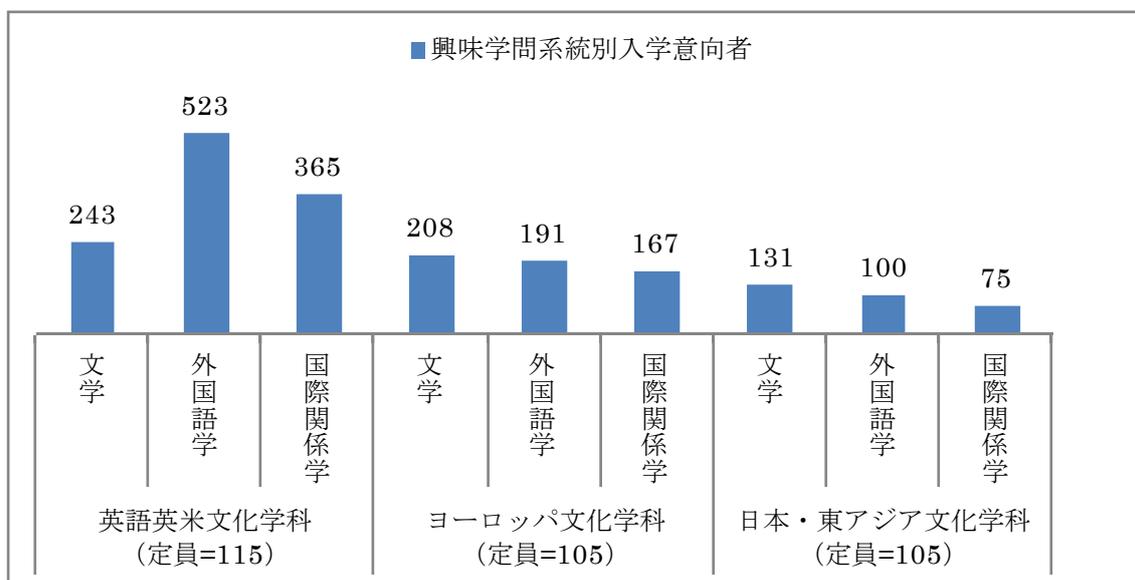
資料 16 高校生対象調査：人文学部3学科への入学意向



資料 17 高校生対象調査：人文学部3学科入学意向者の高校所在地と希望進路

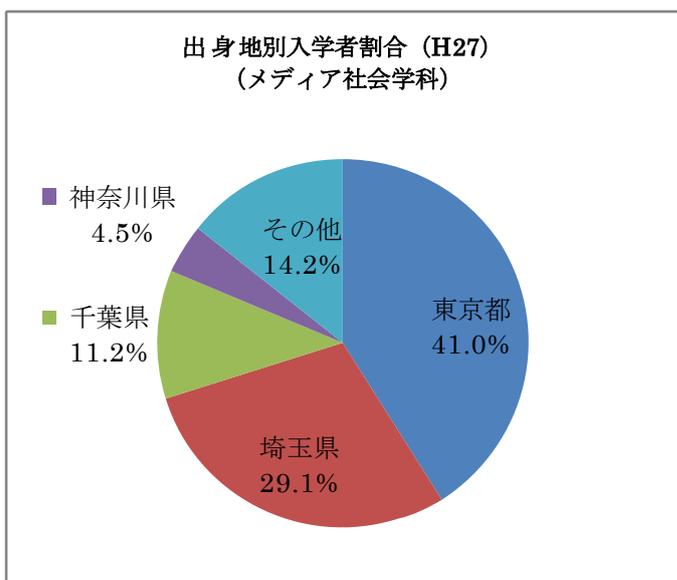
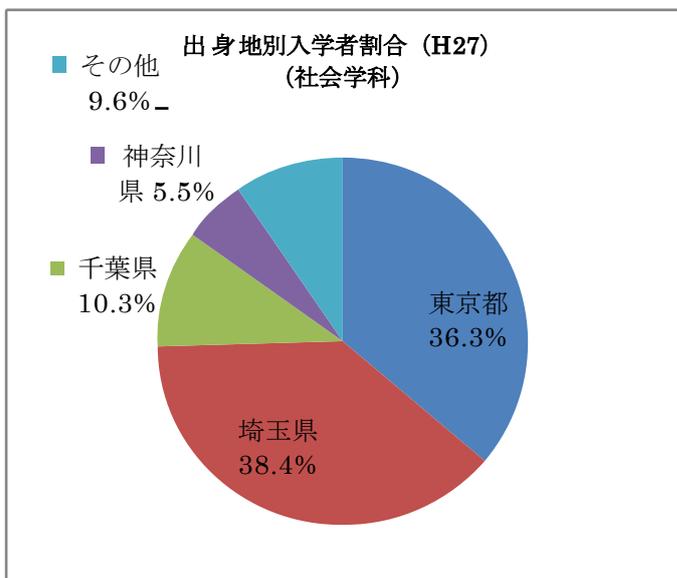


資料 18 高校生対象調査：人文学部3学科の興味関心別入学意向者数

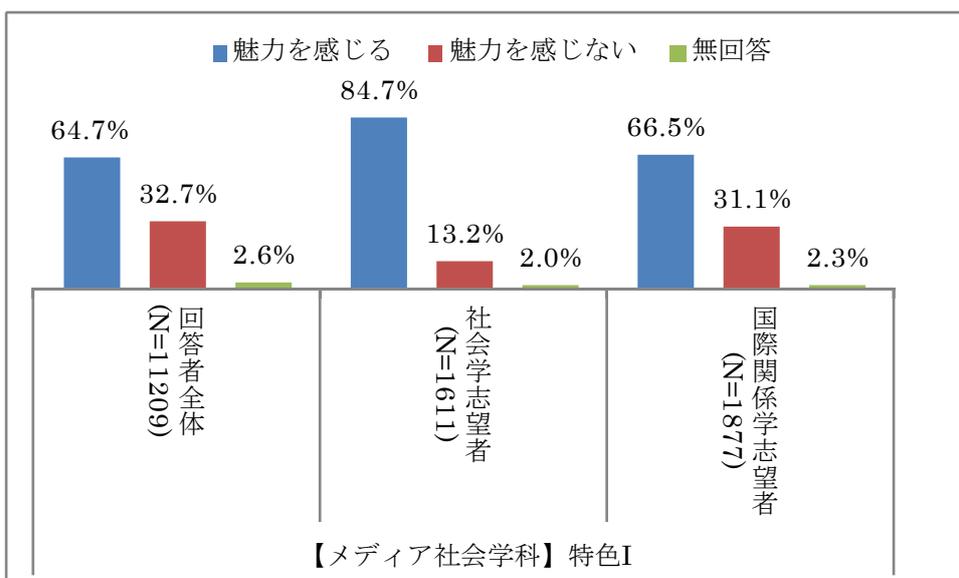
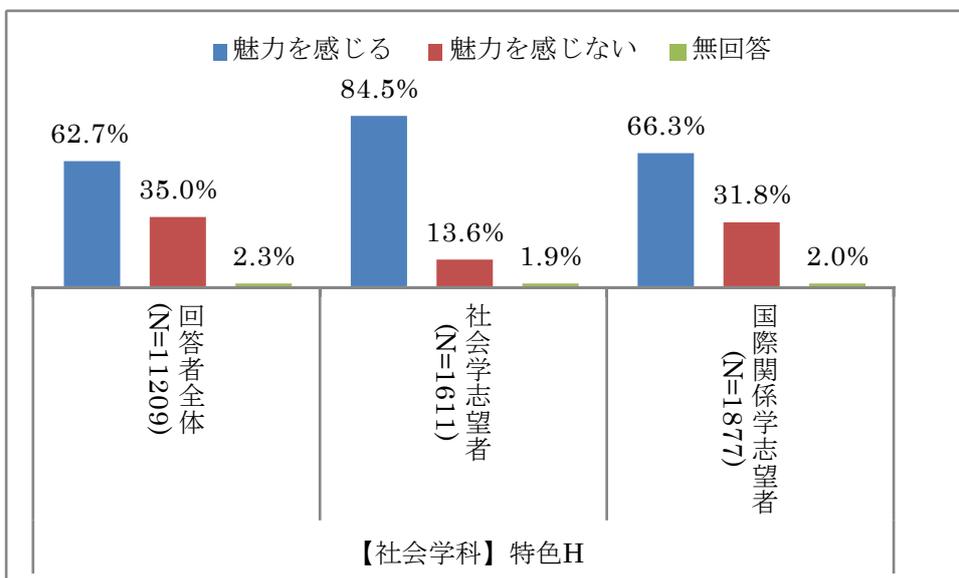


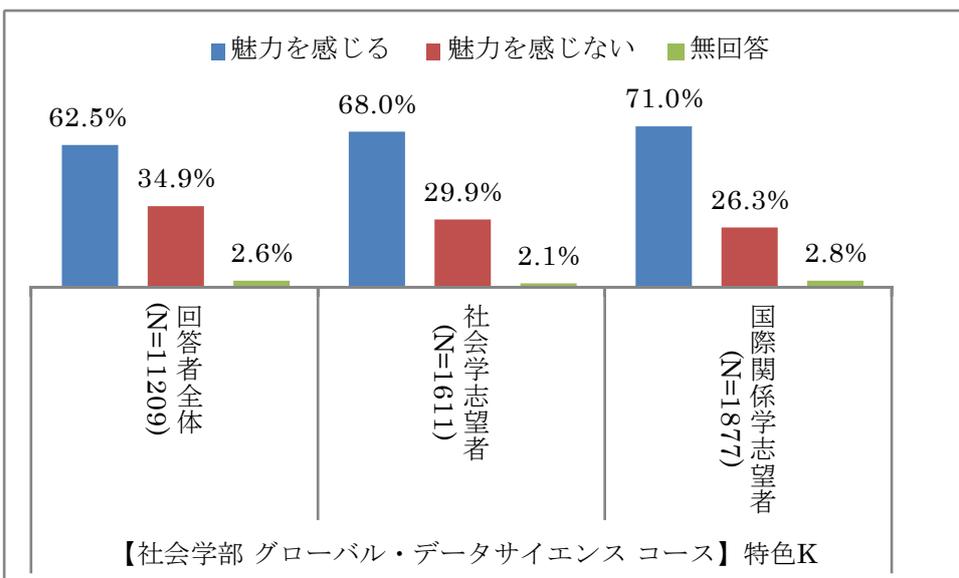
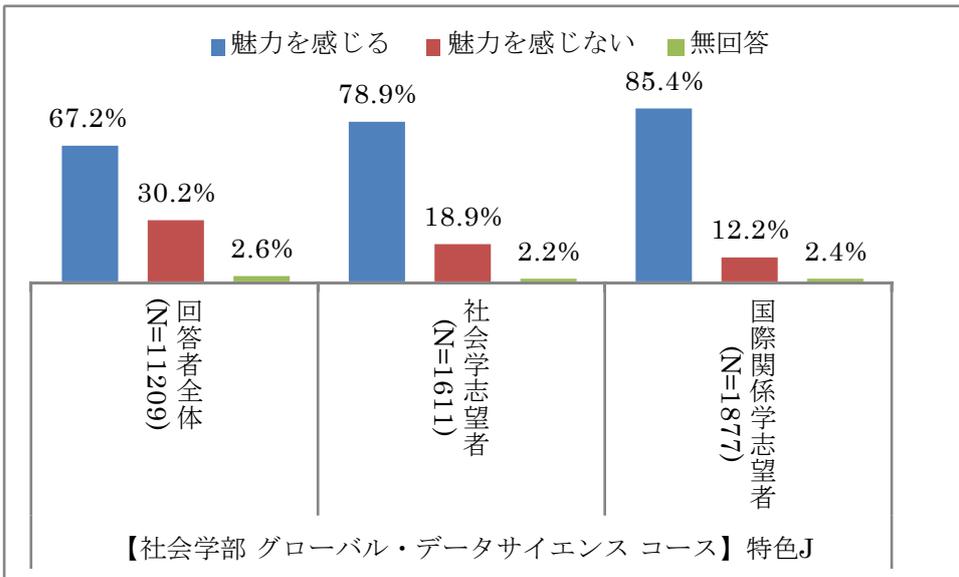
注) 複数回答

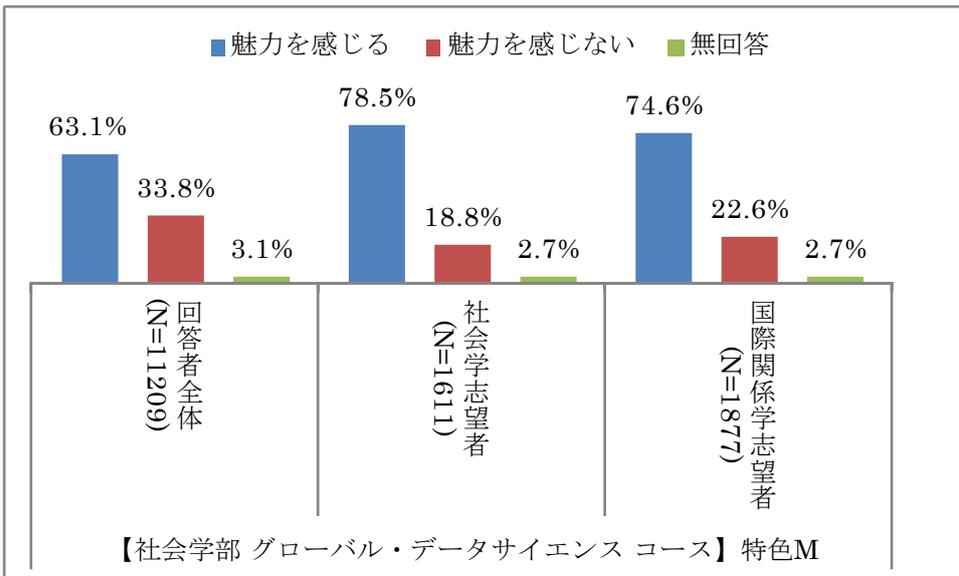
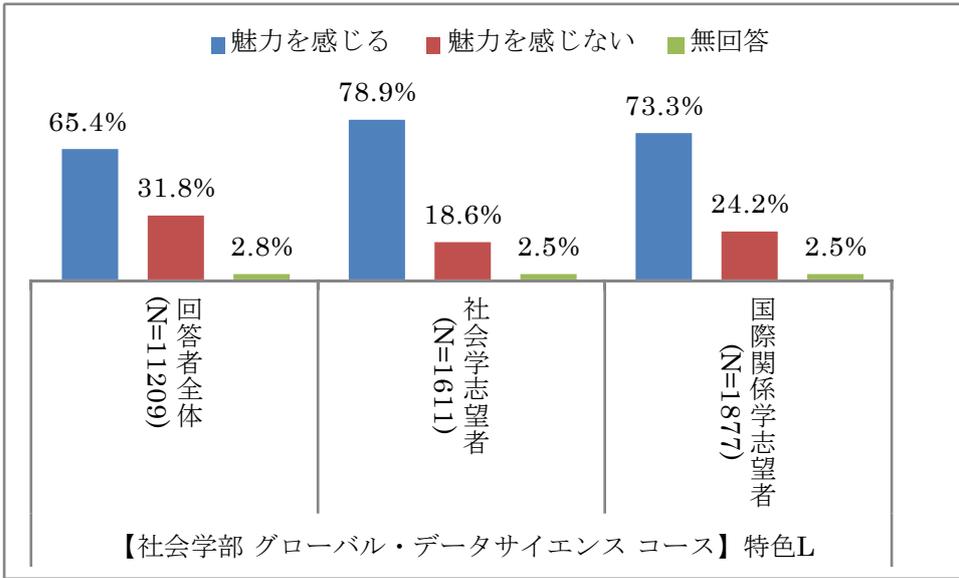
資料 19 社会学部2学科入学者の出身地別割合 (平成27年度)



資料 20 高校生対象調査：社会学部 2 学科及びグローバル・データサイエンスコースの魅力度（特色 H～特色 M の 6 項目）

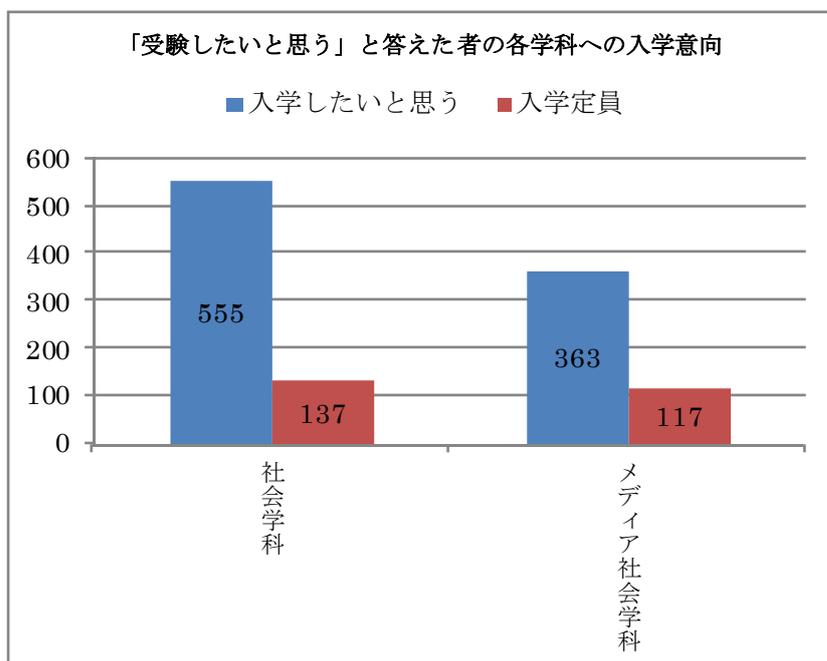




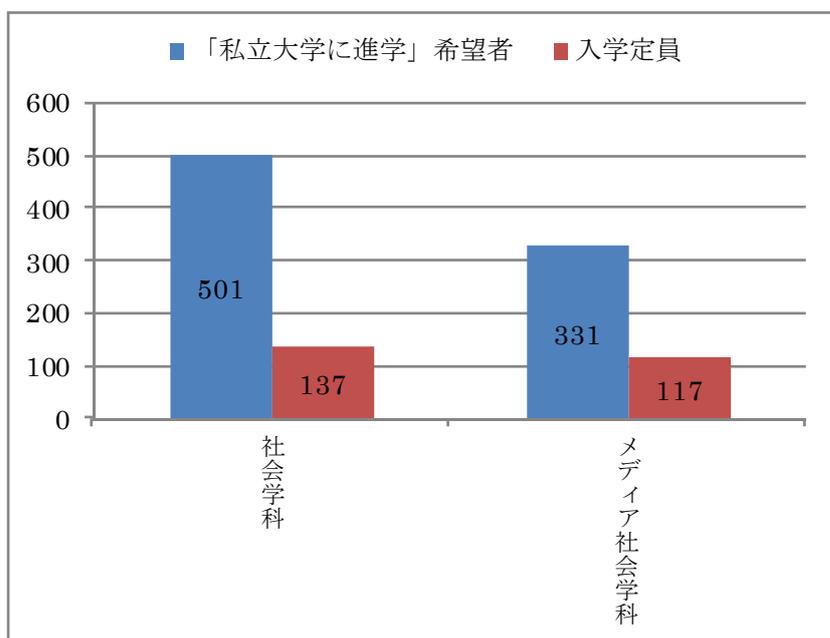
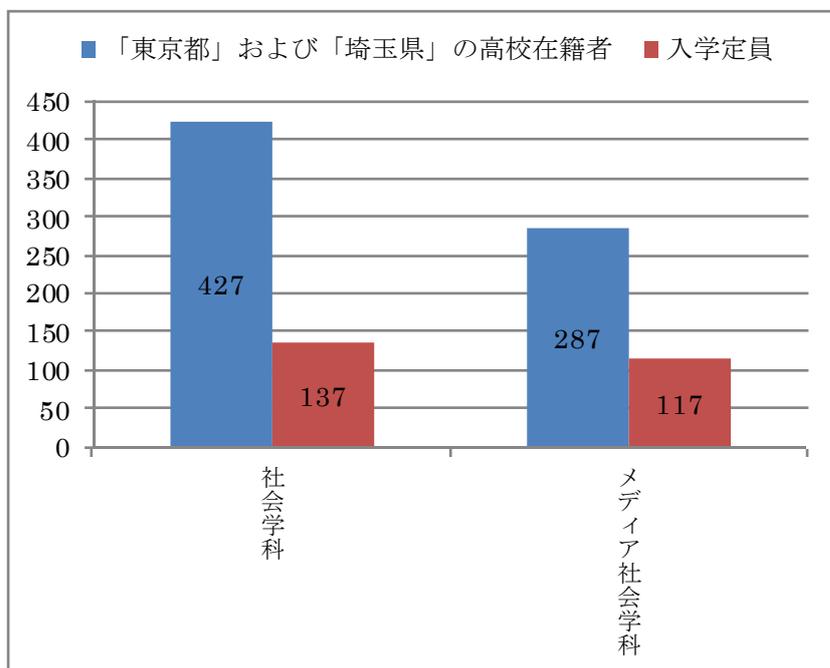


注) 「魅力を感じる」は、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計であり、「魅力を感じない」は「あまり魅力を感じない」と「まったく魅力を感じない」の合計である。

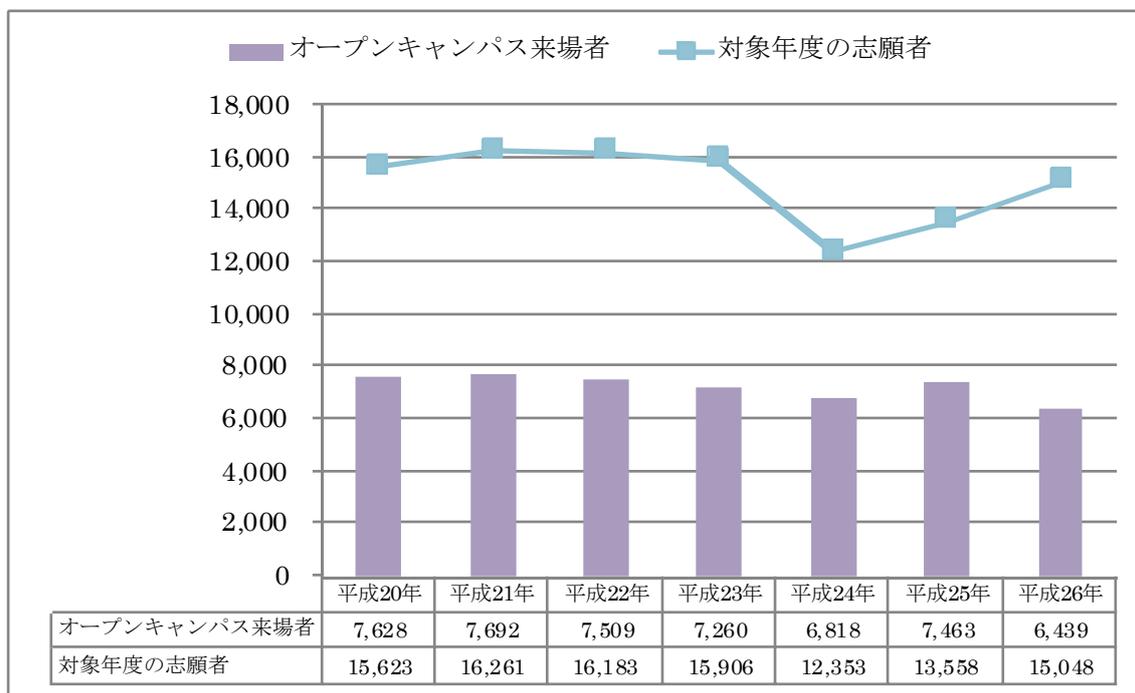
資料 21 高校生対象調査：社会学部2学科への入学意向



資料 22 高校生対象調査：社会学部2学科入学意向者の高校所在地と希望進路



資料 23 本学のオープンキャンパス来場者数と志願者数の推移



15031

No.

武蔵大学「人文学部」「社会学部」に関するアンケート

武蔵大学では2017年(平成29年)4月より、「人文学部 英語英米文化学科」の入学定員を100名から115名へ、「人文学部 ヨーロッパ文化学科」の入学定員を100名から105名へ、「人文学部 日本・東アジア文化学科」の入学定員を100名から105名へ、「社会学部 社会学科」の入学定員を125名から137名へ、「社会学部 メディア社会学科」の入学定員を105名から117名へ増やすことを計画しています。

「人文学部」では外国人の教員が中心になって英語による授業と日常的学習サポートを提供する3学科横断型のグローバル・スタディーズ・コースを新設します。英語圏以外との国際交流を促進する多言語プログラムも導入します。もちろん、3学科には、言語、文学、歴史、民俗、思想、芸術などの分野に取り組む従来のコースもあります。

「社会学部」では、グローバル社会を把握し、分析するためのツールとして英語やデータサイエンスのスキルを学修できるグローバル・データサイエンス コースを新設し、社会や人間を科学的に分析できる力が身につけられます。このコースは「社会学科」と「メディア社会学科」どちらからも選択できます。

本アンケートは、採用ご担当者の皆様からご意見を伺い、これらの学部・学科の教育内容を充実させる参考資料とさせていただきます。ご回答内容は上記の目的のための統計資料としてのみ使い、会社・団体の名称を特定することは一切ありません。ぜひご協力をお願いします。

1 回答は、あてはまる項目の□枠に✓をつけてください。

2 この用紙は、電算処理しますので、汚さないようにしてください。

3 記入にあたっては、必ず鉛筆またはシャープペンシルで書くようにお願いします。

4 質問により、1つだけ答えるものと、複数答えるものがあります。

5 下記の【良い記入例】にしたがって記入してください。

【記入例】

Q. どのような学部を卒業した人物を採用したいですか。(1つだけでも)

良い 記入例	<input checked="" type="checkbox"/> 文学	<input type="checkbox"/> 法学	<input type="checkbox"/> 社会学
悪い 記入例	<input type="checkbox"/> 法学	<input checked="" type="checkbox"/> 国際関係	<input type="checkbox"/> 社会学

はじめに、貴社・貴団体についてお伺いいたします。

Q1. アンケートご回答者の人事採用への関与についてお答えください。(該当するもの1つに✓)

<input type="checkbox"/> 採用の決裁権があり選考に関与している	<input type="checkbox"/> 採用の決裁権はないが選考に関与している
<input type="checkbox"/> 採用の決裁権はあるが選考には関与していない	<input type="checkbox"/> 採用時には直接かわらず、情報や意見を収集、提供する立場にある

Q2. 貴社・貴団体の本社(本部)の所在地を教えてください。

本社(本部)所在地 都 道 府 県 ←1つだけ

Q3. 貴社・貴団体の業種についてご回答ください。(該当するもの1つに✓)

<input type="checkbox"/> 建設・不動産業	<input type="checkbox"/> 電気・ガス業	<input type="checkbox"/> 医療・福祉
<input type="checkbox"/> 製造業	<input type="checkbox"/> 情報通信業	<input type="checkbox"/> その他サービス
<input type="checkbox"/> 商社	<input type="checkbox"/> 教育施設・教育団体	<input type="checkbox"/> 公務
<input type="checkbox"/> 小売業	<input type="checkbox"/> 文化施設・文化団体	<input type="checkbox"/> その他
<input type="checkbox"/> 金融・保険業	<input type="checkbox"/> 新聞・広告・出版・放送	
<input type="checkbox"/> 運輸・倉庫業	<input type="checkbox"/> 旅行業	

Q4. 貴社・貴団体の従業員数(正規社員)についてご回答ください。(該当するもの1つに✓)

<input type="checkbox"/> 50名未満	<input type="checkbox"/> 100名～500名未満	<input type="checkbox"/> 1,000名～5,000名未満
<input type="checkbox"/> 50名～100名未満	<input type="checkbox"/> 500名～1,000名未満	<input type="checkbox"/> 5,000名以上

次頁に続く→

1

-31-

15032

Q5. 貴社・貴団体の過去3か年の新規大卒者の平均的な採用数について教えてください。

過去3か年 平均

--	--	--	--

名程度

(算用数字でご記入ください)

Q6. 貴社・貴団体の本年度の新規大卒者の採用予定数は昨年度と比較していかがですか。(該当するもの1つに☑)

増やす

減らす

採用予定なし

昨年度並み

未定

見送り(中止)

Q7. 貴社・貴団体ではどのような系統の学部卒者を採用したいとお考えですか。(該当するものすべてに☑)

文学・人文学(歴史・哲学・地理・考古学などを含む)

芸術学(美術・デザイン・音楽などを含む)

外国語学(言語学など含む)

生活科学(食物・栄養・被服・児童学などを含む)

国際関係学

医学・歯学・薬学・看護・保健

経済・経営・商学

理学・工学

社会学

農学・水産学

法学(政治学などを含む)

その他

教育学・教員養成

学部や系統を問わない

武蔵大学では2017年(平成29年)4月に「人文学部 英語英米文化学科」の入学定員を100名から115名へ、「人文学部 ヨーロッパ文化学科」の入学定員を100名から105名へ、「人文学部 日本・東アジア文化学科」の入学定員を100名から105名へ、「社会学部 社会学科」の入学定員を125名から137名へ、「社会学部 メディア社会学科」の入学定員を105名から117名へ増やすことを計画しています。

※ ここからは、グローバル・スタディーズ・コース(GSC)、グローバル・データサイエンスコースの資料をご覧ください ※

Q8. 武蔵大学「人文学部」「社会学部」の各学科および新しい選択肢である人文学部の「グローバル・スタディーズ・コース」、社会学部の「グローバル・データサイエンスコース」には、以下のような特色があります。それぞれについて、貴社・貴団体(ご回答者)はどの程度魅力に感じますか。(それぞれ該当するもの1つに☑)

		とても魅力を感じる	ある程度魅力を感じる	あまり魅力を感じない	まったく魅力を感じない
	例. ○○が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
人文学部	A. 英語圏の文化を学び、コミュニケーション力を身につけます。GSC英語プログラム導入に合わせ、従来型コースにおいても英語学習をさらに強化します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	B. ヨーロッパ世界の文化を学び、語学力を身につけます。GSCの枠組みで英語だけでなく、ドイツ語、フランス語の強化プログラムも新たに提供します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	C. 日本・東アジアの文化を学び、語学力を身につけます。GSCの枠組みで英語だけでなく、中国語、韓国・朝鮮語の強化プログラムも新たに提供します。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	D. クォーター制度をもとにした集中的な英語教育で、英語による専門的講義やゼミを受講するための高い英語力が身につきます(英語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	E. 専門科目には3つのテーマ群「グローバル・リレーションズ(国際関係)」「グローバル・文学」「グローバル・日本学」があり、グローバルに活躍する力や英語を使った情報発信力が身につきます(英語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	F. 短期・長期の留学をはじめ多様なグローバル体験ができます。奨学金制度・奨励制度が参加を後押しします(全ての言語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	G. 武蔵大学の伝統・実績ある少人数教育で、外国人教員からのきめ細かなサポートが受けられます(全ての言語プログラム)。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
社会学部	H. 社会学の基礎的な理論とデータの収集・分析法を学び、現代社会の諸問題を把握、分析する力が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	I. 情報の意味を読み解き、現代社会とメディアの関係を深く学び、メディアを活用する力が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	J. 英語による講義や海外研修などを通して、グローバル社会を分析するツールとしての英語力を身につけます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	K. 入学後3年で卒業することも可能で、卒業後は国内外の大学院や国際インターンシップなど多様な進路選択ができます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	L. 他学部や大学院の開講科目が受けやすくなるため、幅広い学修や学部時代から高度な研究にふれることが可能になります。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
M. 専門科目を通して社会データの科学的分析法やメディア分析法を学び、グローバル社会を分析する力が身につきます。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	

次頁に続く→

Q9. 貴社・貴団体(ご回答者)は、武蔵大学「人文学部」「社会学部」の各学科は将来の社会にとって必要だと思いますか。(各学科について該当するものどちらか1つに☑)

- 【人文学部】** (1) 英語英米文化学科
 必要だと思う 必要だと思わない
- (2) ヨーロッパ文化学科
 必要だと思う 必要だと思わない
- (3) 日本・東アジア文化学科
 必要だと思う 必要だと思わない
- 【社会学部】** (4) 社会学科
 必要だと思う 必要だと思わない
- (5) メディア社会学科
 必要だと思う 必要だと思わない

Q10. 貴社・貴団体では武蔵大学「人文学部」「社会学部」の各学科の卒業者を採用したいと思われませんか。(各学科について該当するものどちらか1つに☑)

- 【人文学部】** (1) 英語英米文化学科
 採用したいと思う 採用したいと思わない
- (2) ヨーロッパ文化学科
 採用したいと思う 採用したいと思わない
- (3) 日本・東アジア文化学科
 採用したいと思う 採用したいと思わない
- 【社会学部】** (4) 社会学科
 採用したいと思う 採用したいと思わない
- (5) メディア社会学科
 採用したいと思う 採用したいと思わない

Q11. 上の質問10で「採用したいと思う」と回答された方におたずねします。採用を考える場合、毎年、何名程度を想定されますか、現時点でのご回答者ご自身のお考えに最も近いものをお選びください。ご回答によって実際の採用人数をお約束いただくものではありません。(各学科について該当するもの1つに☑)

		1名	2名	3名	4名	5名 ～9名	10名 以上	人数は 未確定
人文学部	英語英米文化学科	→	<input type="checkbox"/>					
	ヨーロッパ文化学科	→	<input type="checkbox"/>					
	日本・東アジア文化学科	→	<input type="checkbox"/>					
社会学部	社会学科	→	<input type="checkbox"/>					
	メディア社会学科	→	<input type="checkbox"/>					

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

資料 25 企業対象調査における回答者の属性

調査項目	回答項目	件数	割合
採用への関与度	採用決裁権有、選考関与有	101	24.9%
	採用決裁権有、選考関与無	2	0.5%
	採用決裁権無、選考関与有	280	69.1%
	情報や意見を収集、提供する立場のみ	20	4.9%
	無回答	2	0.5%
	合計	405	100.0%
会社の本社所在地	東京都	284	70.1%
	埼玉県	19	4.7%
	その他（北海道など24道府県）	102	25.2%
	合計	405	100.0%
業種	建設・不動産業	36	8.9%
	製造業	66	16.3%
	商社	52	12.8%
	小売業	34	8.4%
	金融・保険業	50	12.3%
	運輸・倉庫業	19	4.7%
	電気・ガス業	2	0.5%
	情報通信業	28	6.9%
	教育施設・教育団体	3	0.7%
	文化施設・文化団体	0	0.0%
	新聞・広告・出版・放送	16	4.0%
	旅行業	2	0.5%
	医療・福祉	5	1.2%
	その他サービス	58	14.3%
	公務	22	5.4%
	その他	10	2.5%
	無回答	2	0.5%
	合計	405	100.0%
従業員規模	50名未満	30	7.4%
	50名～100名未満	26	6.4%

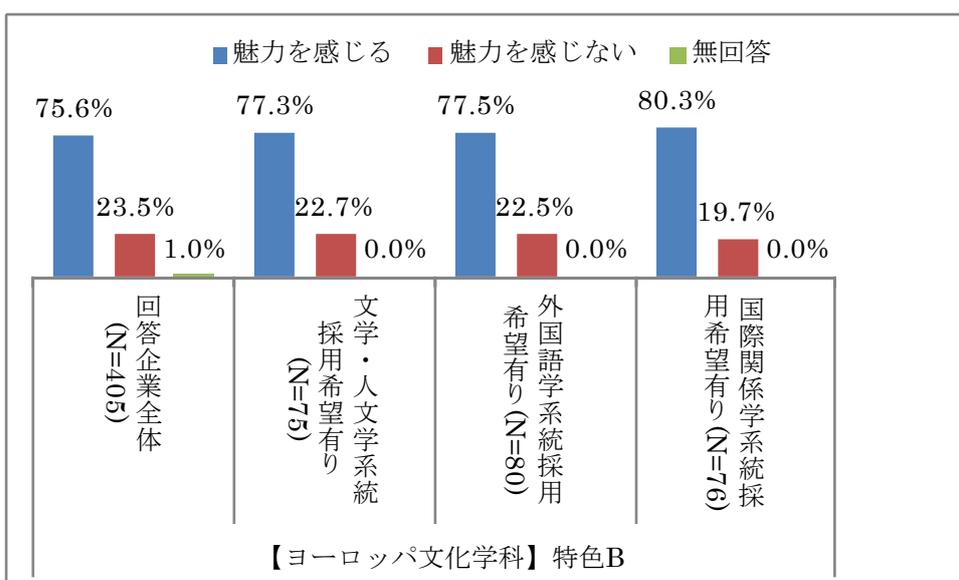
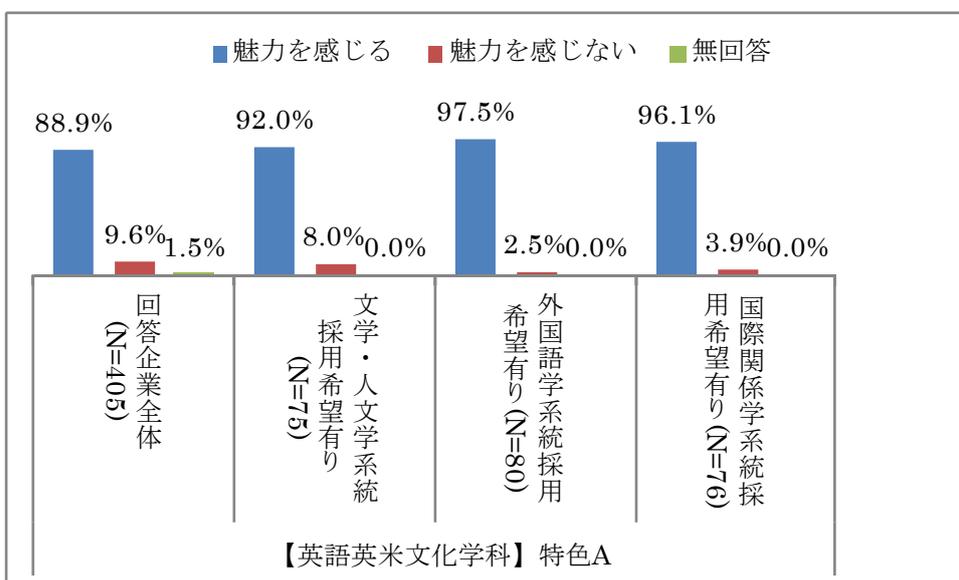
	100名～500名未満	97	24.0%
	500名～1,000名未満	72	17.8%
	1,000名～5,000名未満	134	33.1%
	5,000名以上	45	11.1%
	無回答	1	0.2%
	合計	405	100.0%
過去3か年採用数	0名	4	1.0%
	1名～5名未満	61	15.1%
	5名～10名未満	43	10.6%
	10名～20名未満	69	17.0%
	20名～30名未満	50	12.3%
	30名～50名未満	42	10.4%
	50名～100名未満	55	13.6%
	100名以上	74	18.3%
	無回答	7	1.7%
	合計	405	100.0%
採用方針	増やす	104	25.7%
	昨年度並み	229	56.5%
	減らす	24	5.9%
	未定	37	9.1%
	採用予定なし	5	1.2%
	見送り(中止)	4	1.0%
	無回答	2	0.5%
	合計	405	100.0%
採用したい学問系統 (※複数回答)	文学・人文学	75	18.5%
	外国語学	80	19.8%
	国際関係学	76	18.8%
	経済・経営・商学	114	28.1%
	社会学	89	22.0%
	法学	85	21.0%
	教育学・教員養成	40	9.9%
	芸術学	37	9.1%

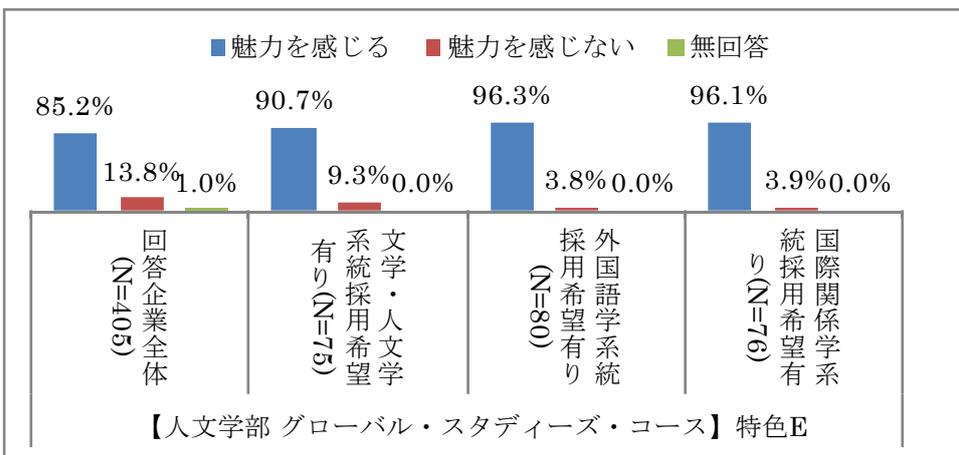
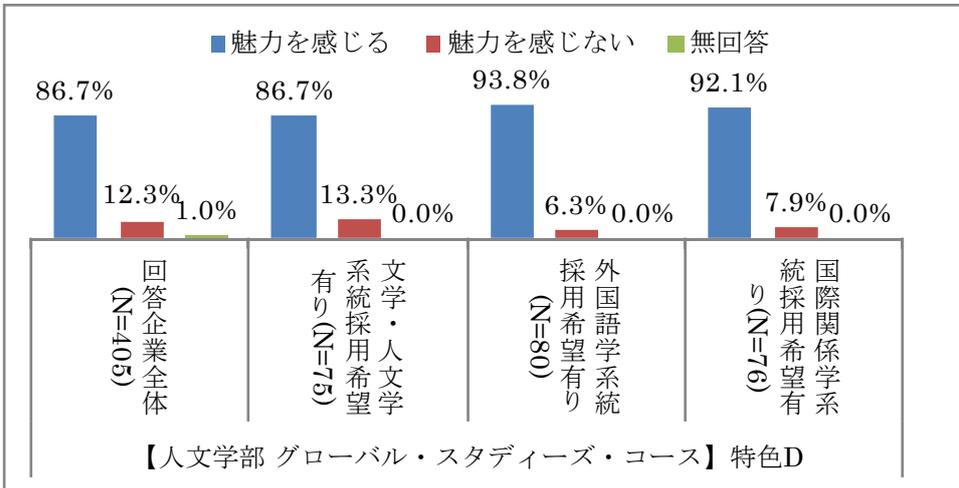
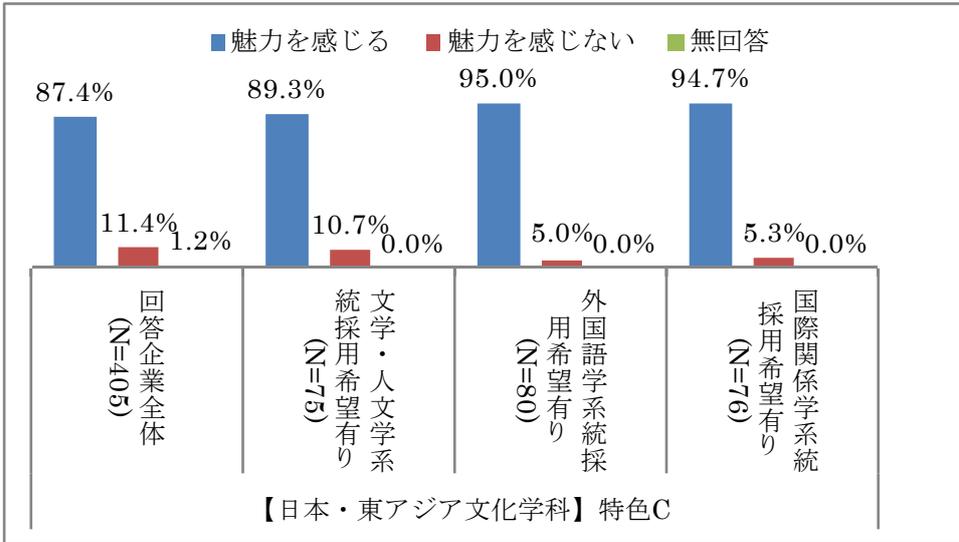
生活科学	28	6.9%
医学・歯学・薬学・看護・保健	15	3.7%
理学・工学	95	23.5%
農学・水産学	36	8.9%
その他	18	4.4%
学部や系統を問わない	263	64.9%
無回答	3	0.7%
合計	405	—

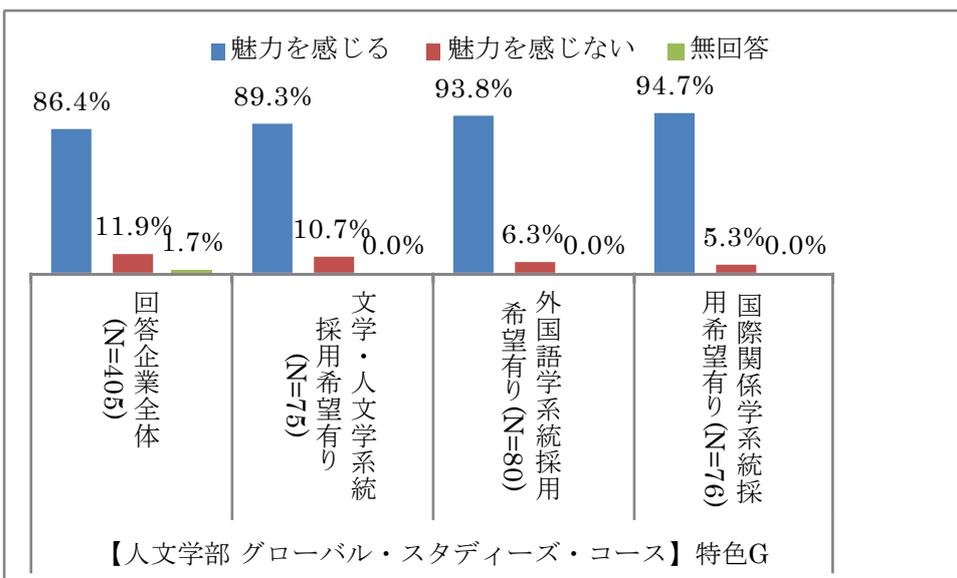
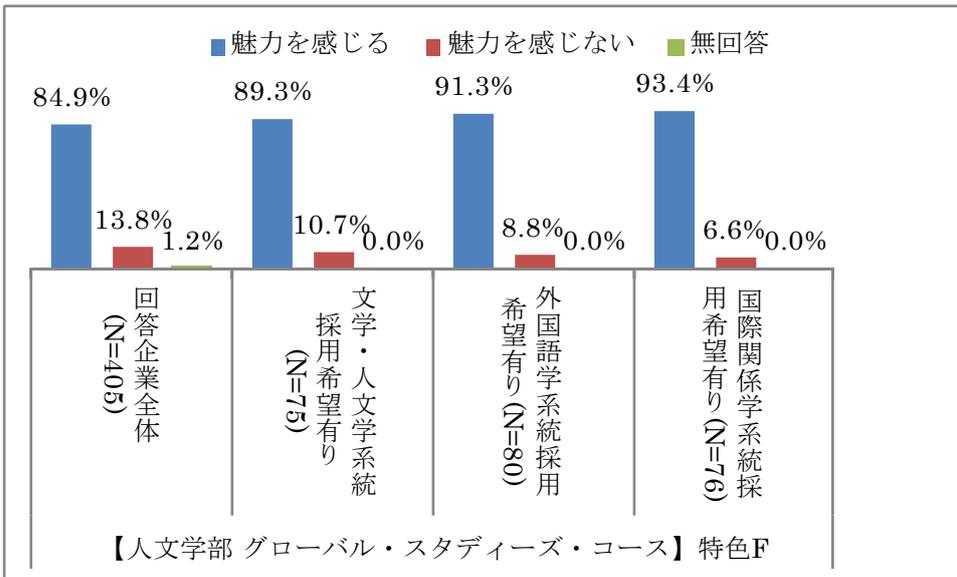
※複数回答のため、件数の合計は405にはならない。

割合は回答者数に対する数値のため、合計は100%にはならない。

資料 26 企業対象調査：人文学部 3 学科及び学科横断グローバル・スタディーズ・コース
の魅力度（特色A～特色Gの7項目）

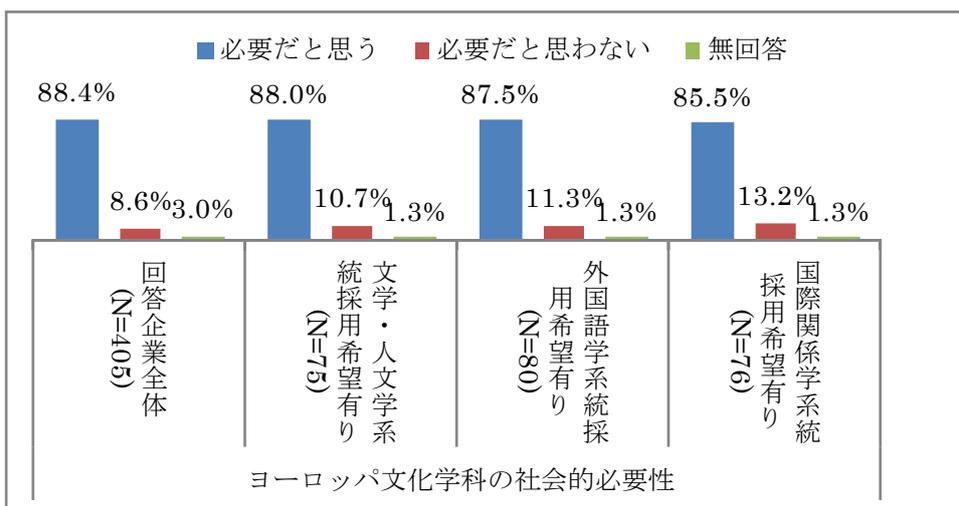
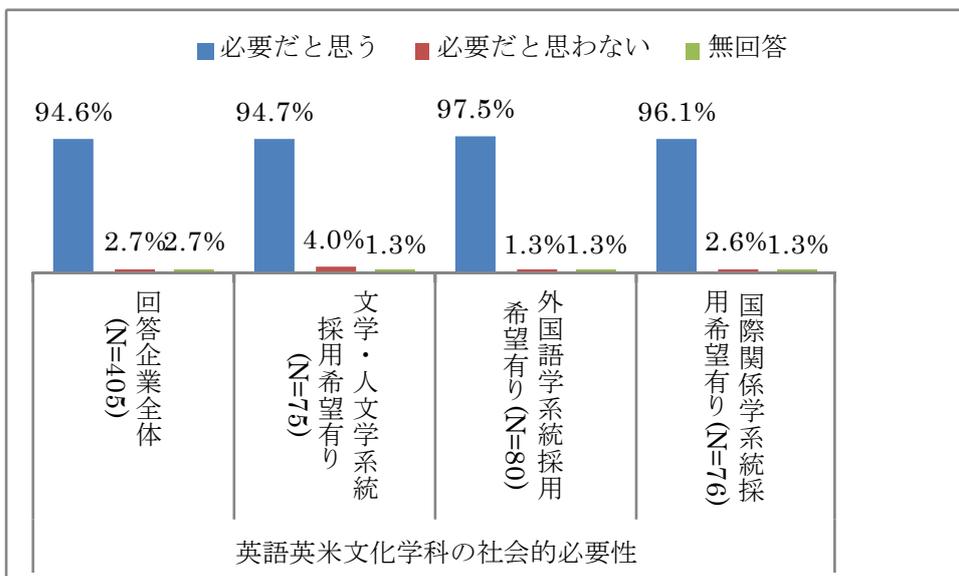


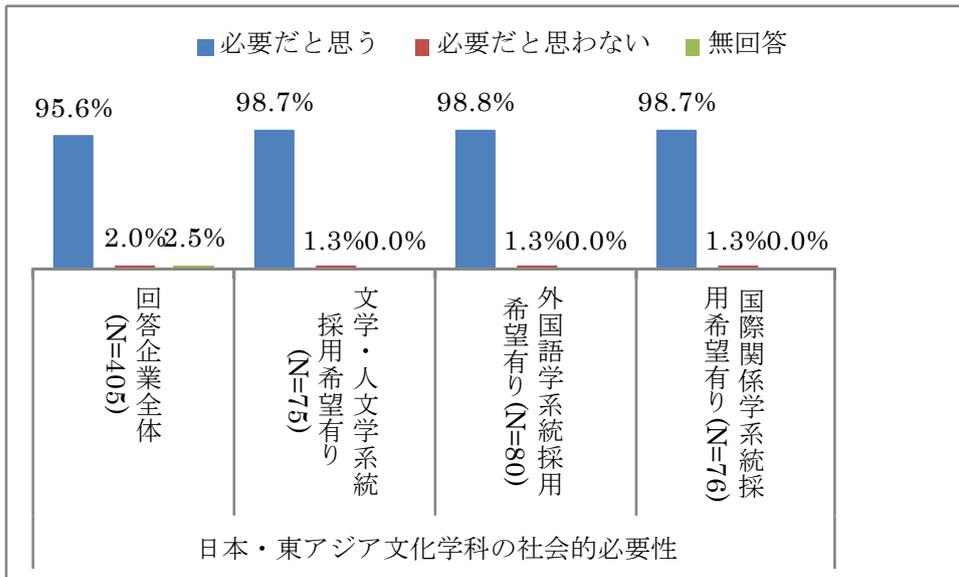




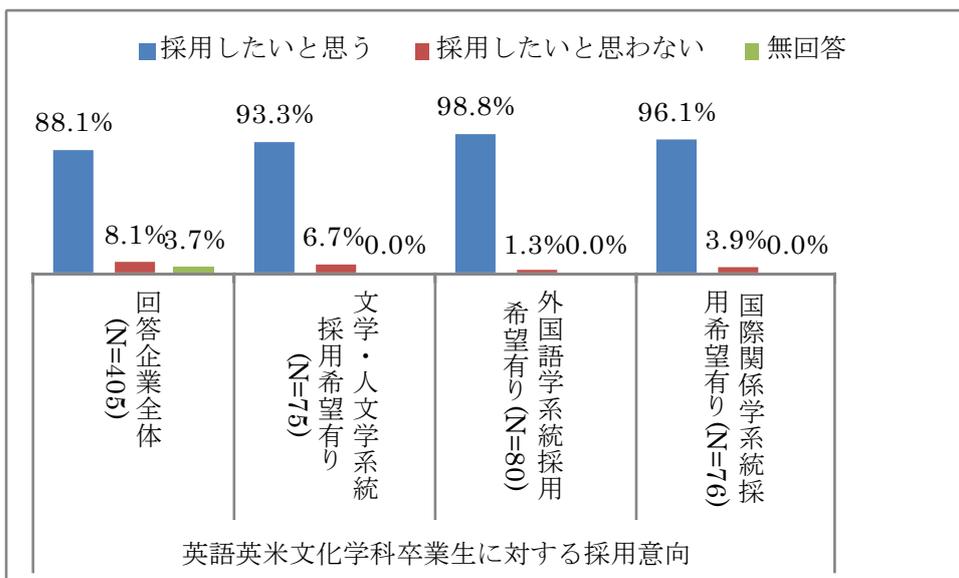
注) 「魅力を感じる」は、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計であり、「魅力を感じない」は「あまり魅力を感じない」と「まったく魅力を感じない」の合計である。

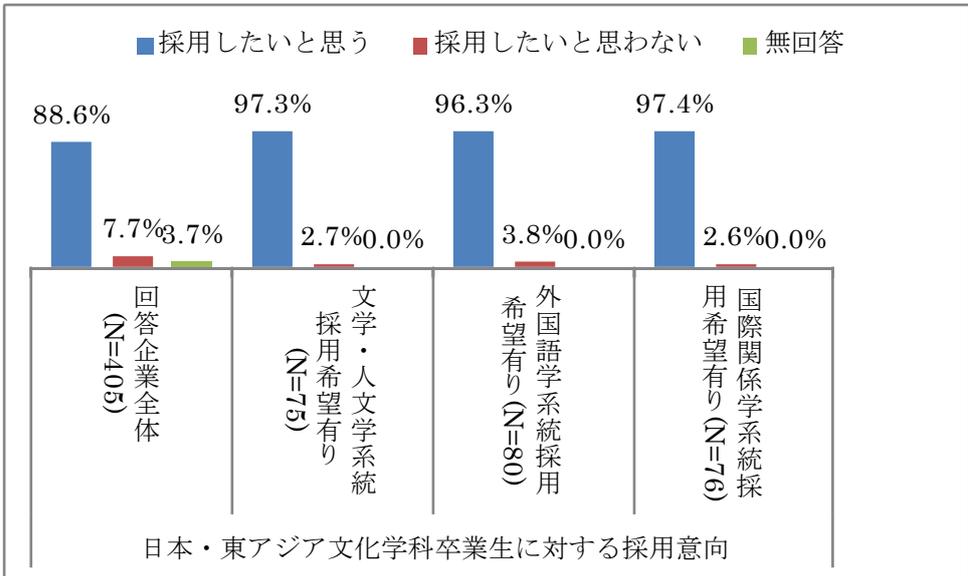
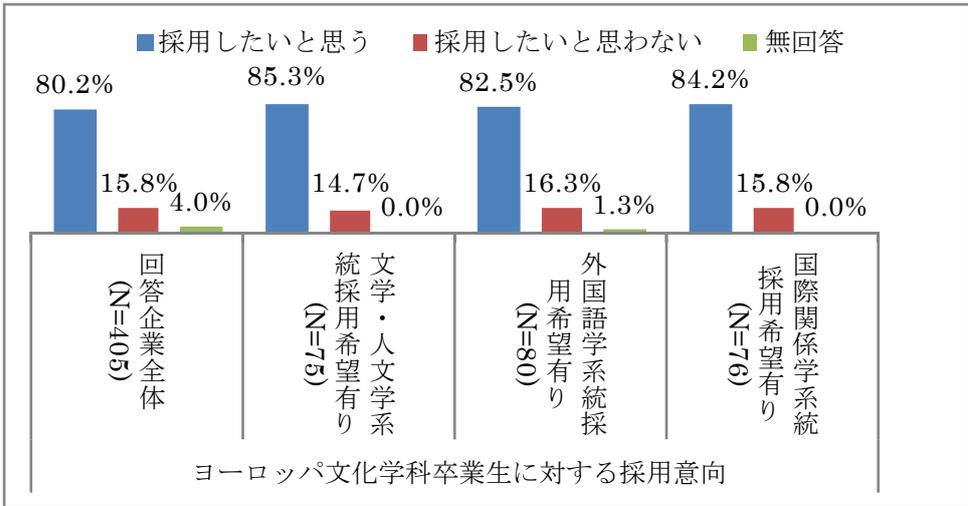
資料 27 企業対象調査：人文学部 3 学科の社会的必要性に関する評価





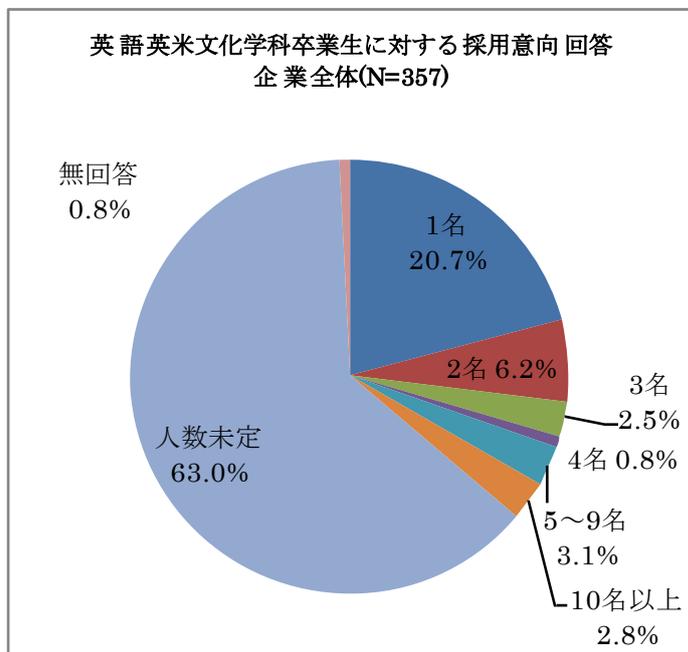
資料 28 企業対象調査：人文学部 3 学科の卒業生に対する採用意向



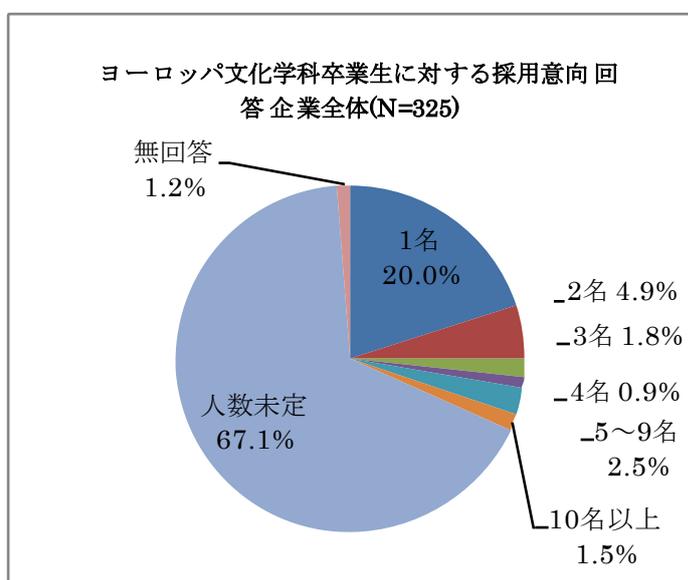


資料 29 企業対象調査：人文学部 3 学科の卒業生に対する毎年度の採用想定人数

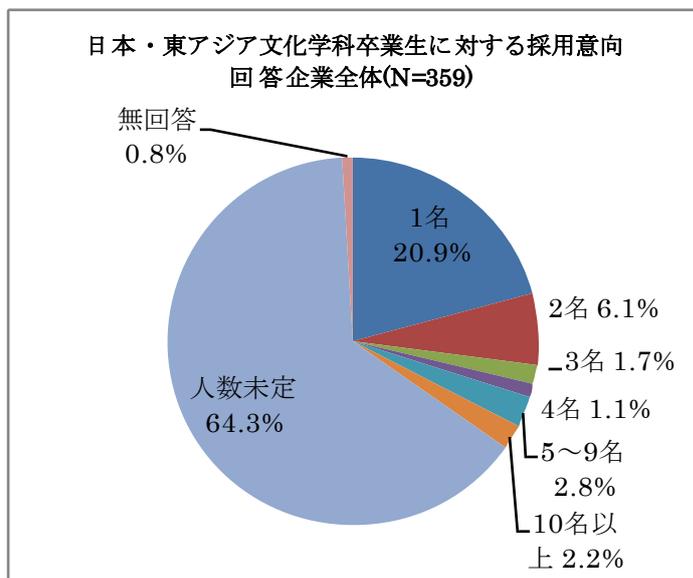
〈英語英米文化学科：計 537 名〉



〈ヨーロッパ文化学科：計 435 名〉

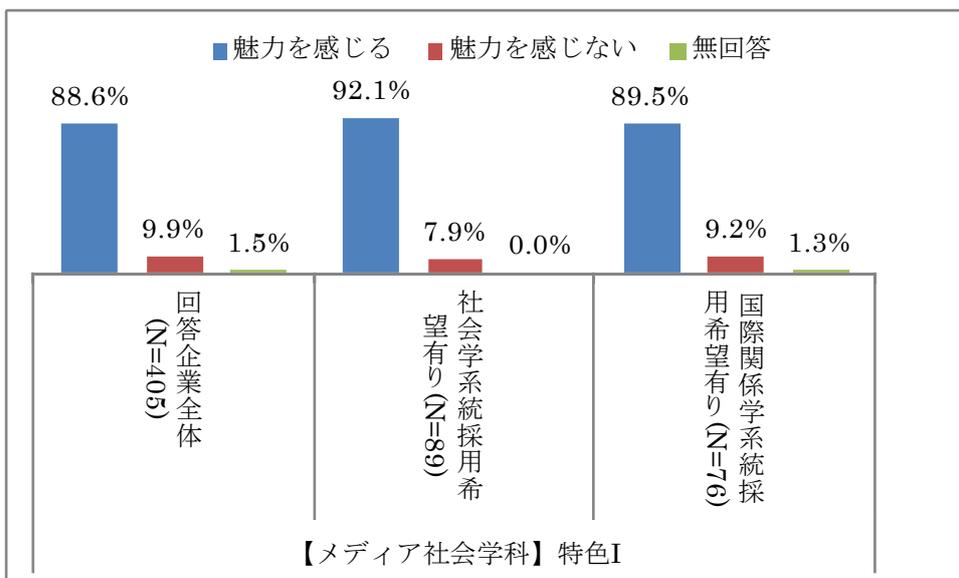
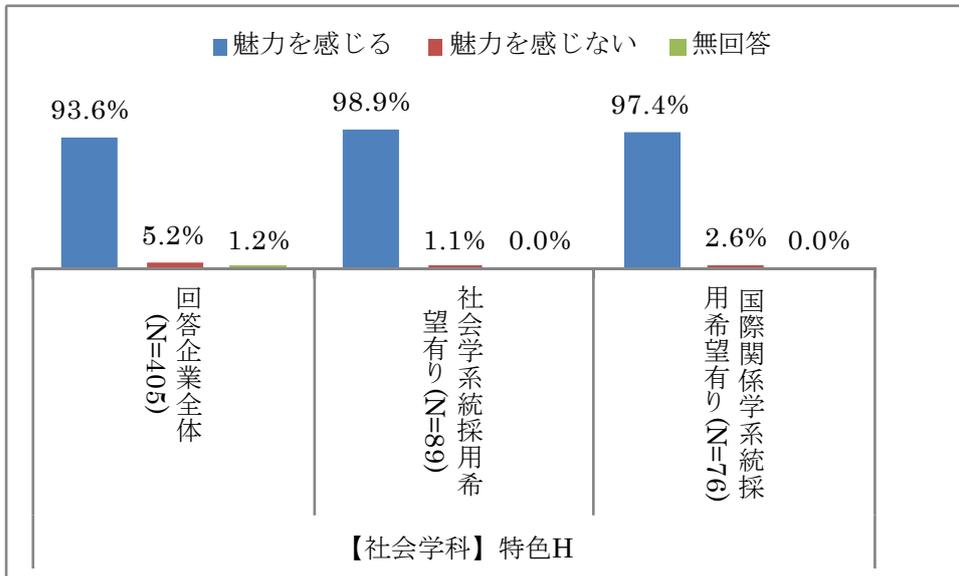


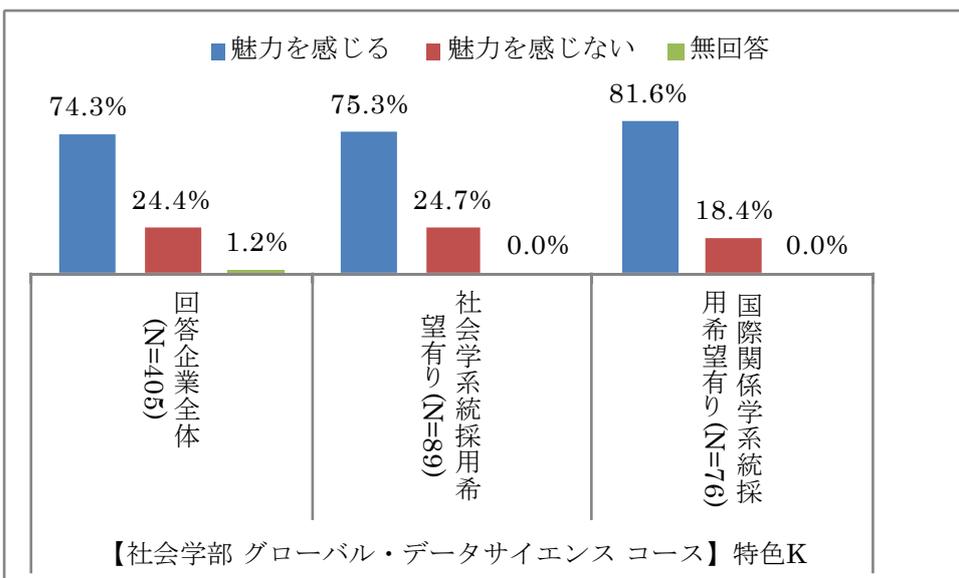
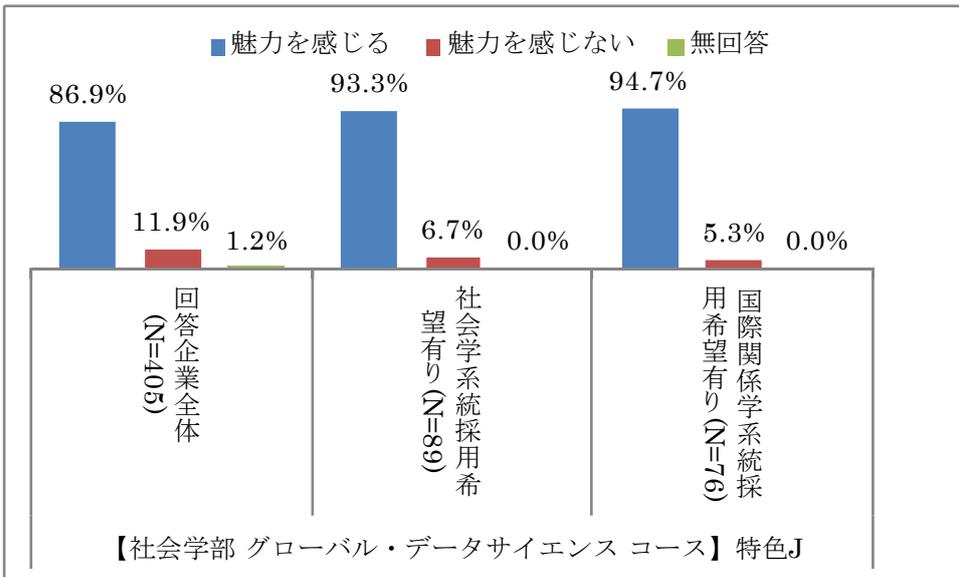
〈日本・東アジア文化学科：計 514 名〉

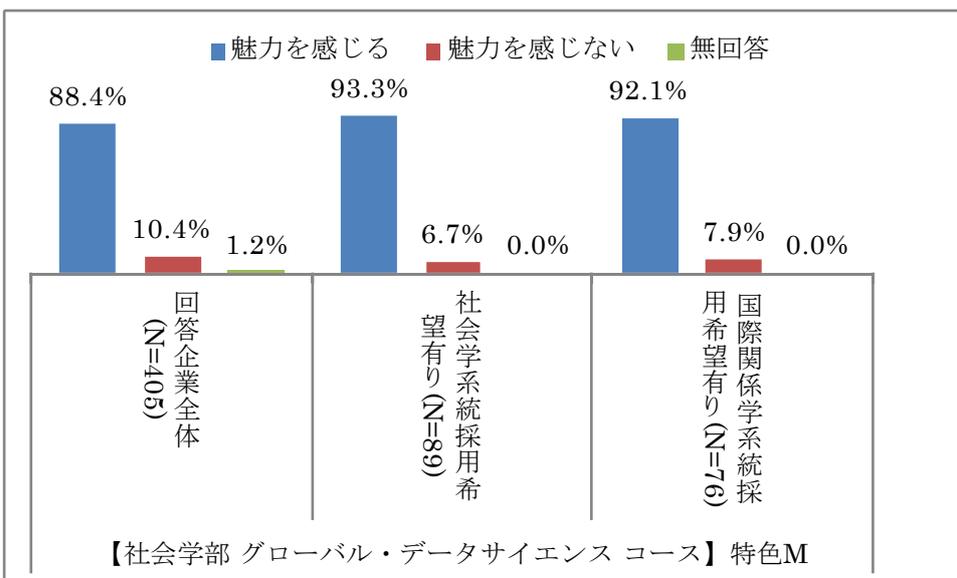
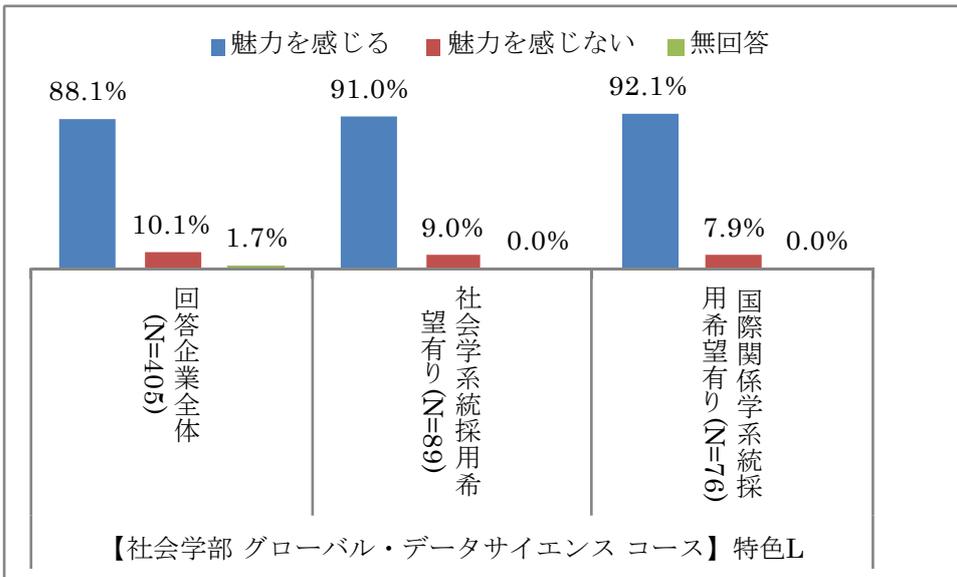


注) 毎年の採用想定人数の計は、「5名～9名」=5名、「10名以上」=10名、「人数は未確定」=1名を代入し合計値を算出

資料 30 企業対象調査：社会学部 2 学科及びグローバル・データサイエンスコースの魅力度（特色 H～特色 M の 6 項目）

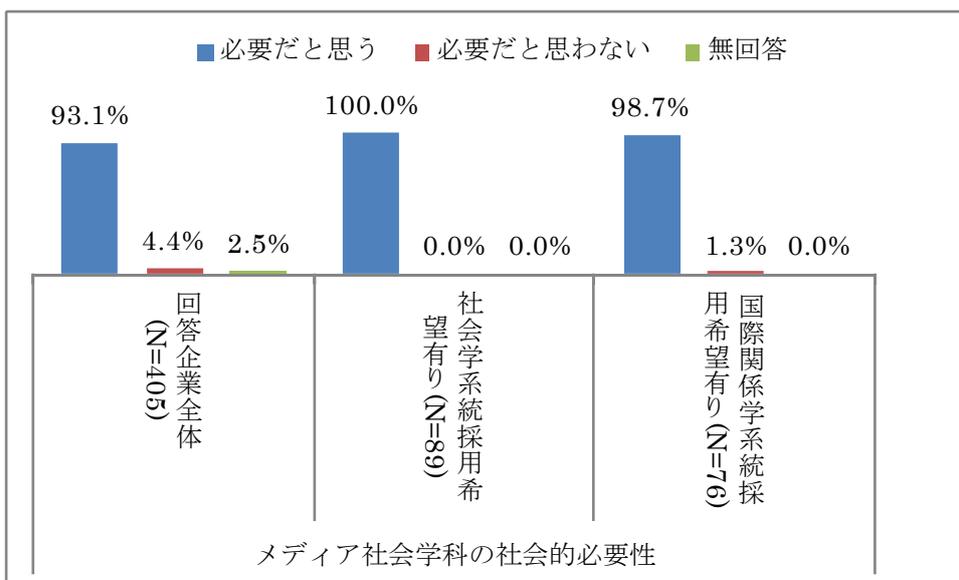
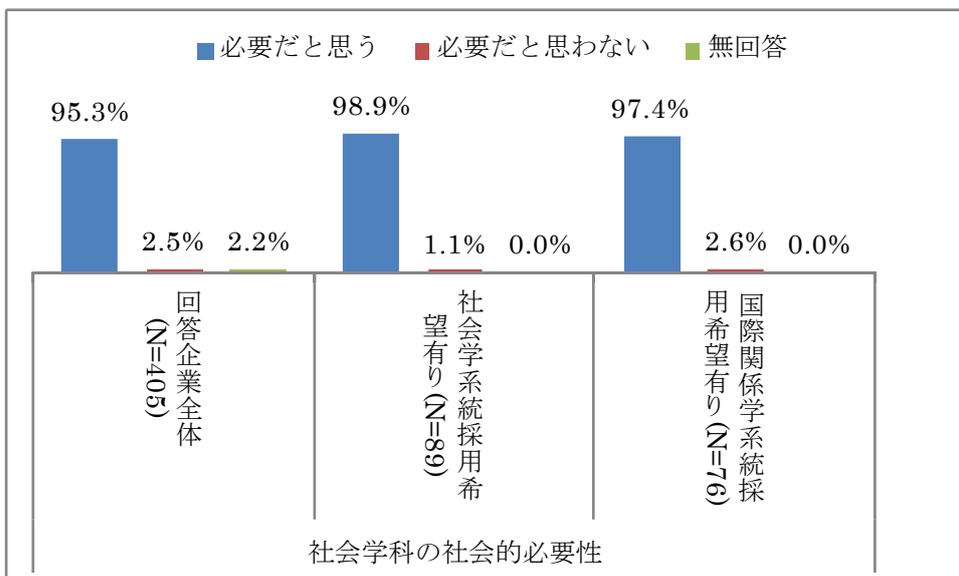




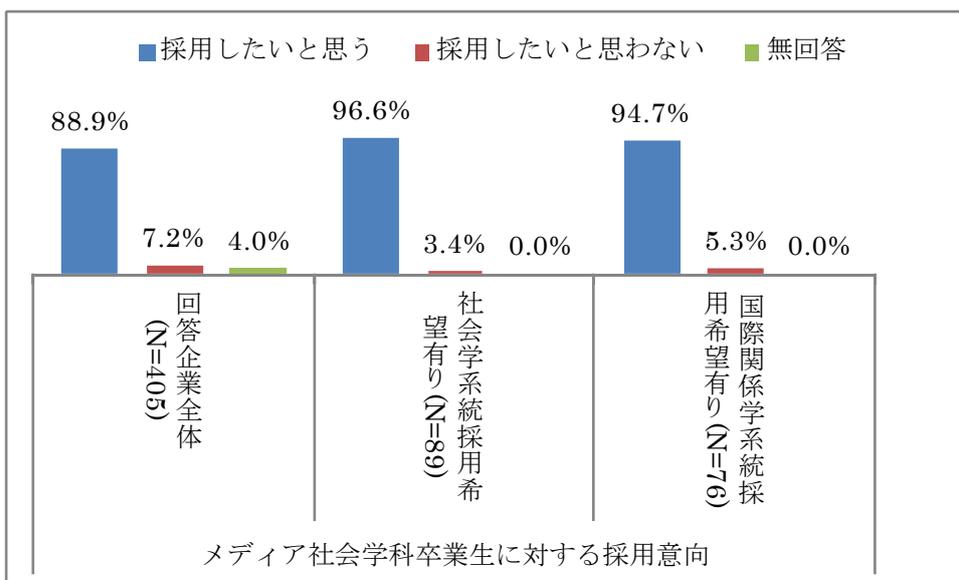
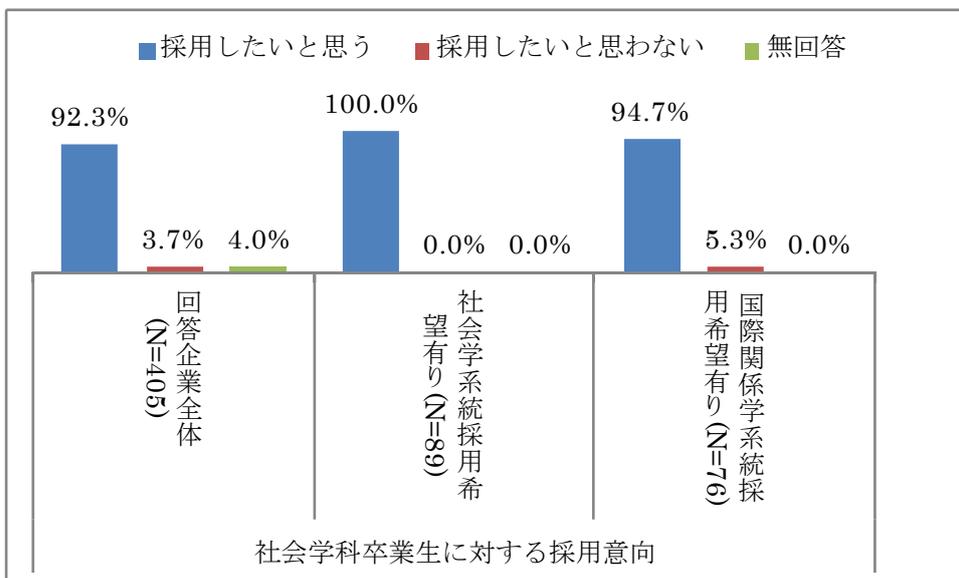


注) 「魅力を感じる」は、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計であり、「魅力を感じない」は「あまり魅力を感じない」と「まったく魅力を感じない」の合計である。

資料 31 企業対象調査：社会学部 2 学科の社会的必要性に関する評価

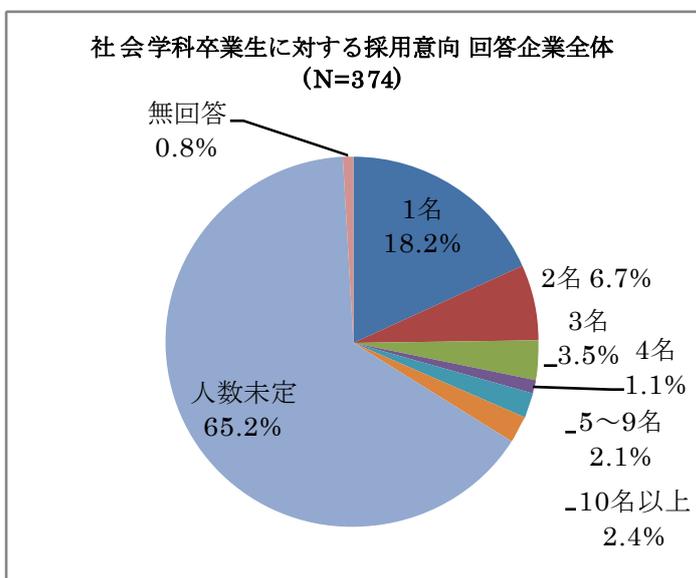


資料 32 企業対象調査：社会学部 2 学科の卒業生に対する採用意向

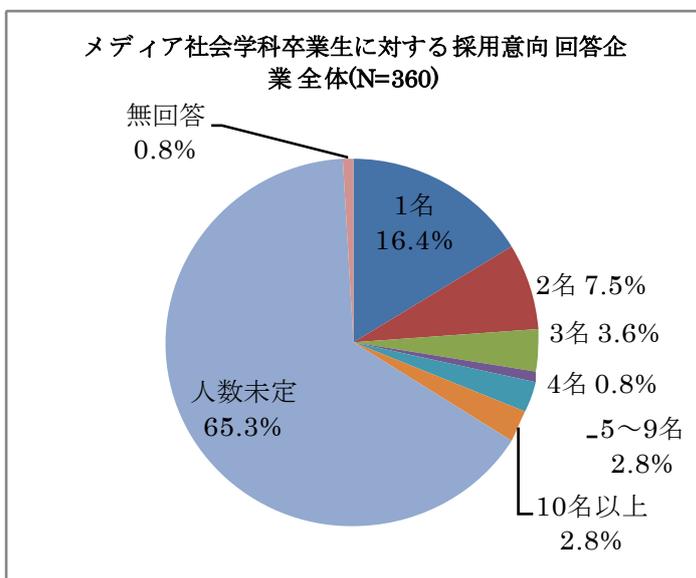


資料 33 企業対象調査：社会学部 2 学科の卒業生に対する毎年度の採用想定人数

〈社会学科：計 547 名〉



〈メディア社会学科：計 549 名〉



注) 毎年の採用想定人数の計は、「5名～9名」＝5名、「10名以上」＝10名、「人数は未確定」＝1名を代入し合計値を算出